



第9回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム派遣
派遣概要報告書



太江田 真樹
仙田 雅大

尾形 凜太郎
小池 明日香



目次

1. イントロダクション
 - 1.1 はじめに
 - 1.2 派遣に関する基本情報
 - 1.3 第9回 APRスカウトユースフォーラムについて
2. 派遣基本情報
 - 2.1 派遣情報
 - 2.2 フィリピンについて
 - 2.3 派遣日程
 - 2.4 派遣員紹介
3. 第9回APRスカウトユースフォーラム派遣
 - 3.1 第9回APRスカウトユースフォーラム概要
 - 3.2 フォーラム中のスケジュール
 - 3.3 トピックについて
 - 3.4 インターナショナルナイトについて
 - 3.5 APRスカウトユースフォーラムについて
 - 3.6 YAMGとは
 - 3.7 提言文について
4. 提言文
 - 4.1 最終宣言
5. Dialogue for Peace Awareness Workshopについて
 - 5.1 概要
 - 5.2 評価・反省
6. Inter event programme
 - 6.1 概要
 - 6.2 Habitat for Humanityとは
 - 6.3 詳細内容
 - 6.4 参加を通して
7. 第26回APRスカウト会議派遣
 - 7.1 概要
 - 7.2 日本派遣団メンバー
 - 7.3 日程
 - 7.4 分科会について
8. 派遣前の動きについて
 - 8.1 事前準備
 - 8.2 調査アンケート結果
 - 8.3 グッズ製作について
 - 8.4 SNSでの情報発信について
9. 帰国後の動きについて
 - 9.1 事後集会
 - 9.2 派遣団の目的・目標に対する評価
10. 派遣員所感
 - 太江田 真樹
 - 尾形 凜太郎
 - 小池 明日香
 - 仙田 雅大



11. 派遣に参加して

11.1 派遣員として日本連盟への要望

11.2 RCJへの要望

12. 総括

12.1 おわりに

12.2 参考資料

12.3 記録

1. イントロダクション

1.1 はじめに

我らが所属するアジア太平洋地域(APR)の事務局はフィリピン連盟に設置されており、今回、そのフィリピン連盟が共催するアジア太平洋地域スカウトユースフォーラムへの派遣に臨んだ。年々増えているWOSM加盟国だが、APRにおいては昨年よりベトナムとマカオの計2カ国の新たな加盟が決定し、祝福の声が上がった。

フォーラムで取り扱われた3つのトピックは後にも先にも重要なテーマである。周知の通り、3年後の2022年に日本連盟は100周年を迎え、また同年には第18回日本ジャンボリーが東京オリンピックと同じ地で、開催されることも決まっている。第17回日本ジャンボリーでは従来の紙を用いた情報提供ではなく、身近にあるソーシャルメディアを用いた情報提供を実施されるなど環境に配慮した、またより円滑化した情報提供の方法が用いられた。こうした時代に即した組織運営が求められるようになると、3年後にはまたさらなる進展が求められるだろう。時代の変化に対応できる若者を積極的に入れ、その運営に混ぜていくという意味において、青年の関与の重要性が高まるのではないだろうか。



1.2 派遣に関する基本情報

名称	9th Asia-Pacific Regional (APR) Scout Youth Forum /第9回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム 26th Asia-Pacific Regional (APR) Scout Conference /第26回アジア太平洋地域スカウト会議
期間	平成30年10月8日(月) - 平成30年10月21日(月) 14日間
場所	フィリピン タガイタイ(APRSYF) マニラ(APRSConf)
派遣目的	1. 各国連盟の青年代表としての意見をもち寄り、社会的な課題を解決する糸口を見つけ出すこと。 2. APRおよび他国連盟のスカウティングに関する考え方を日本に持ち帰ること。
目標	1. 事前に日本のローバーの現状についてまとめること 2. 得られた情報や知見を参加していないスカウトへ伝えること。
方針	フォーラム前後のスカウティングの学びの中で、とりわけフォーラムを通して得られた情報や知見をもとに日本のスカウティングに適した形で私たちが考察する提案を創出する。 最終的には日本連盟とRCJに向けて提言する。

1.3 第9回 APRスカウトユースフォーラムについて

名称	9th Asia-Pacific Regional (APR) Scout Youth Forum /アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム
テーマ	Growth and Stability/成長と安定
規模	参加者: 123名 参加NSO/NSA: 27
APRSYFの役割	1. 若者の意思決定過程への参画の機会の提供 2. ヤングアダルトメンバーズ(YAMG)の選出 3. APRSYF最終宣言の作成、議決
メイントピック	1. Youth Engagement/青年の関与 2. Social Impact in Scouting for Young People/スカウト活動における若者への社会的影響 3. SDGs in Scouting/スカウト活動におけるSDGs
決定事項	1. 6名のヤングアダルトメンバーの選出 2. APRSYF最終提言の議決

2. 派遣基本情報

2.1 派遣情報

名称:

第9回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム派遣及び第26回アジア太平洋地域スカウト会議派遣

期間: 平成30年10月8日(月)～21日(月) 14日間

場所: フィリピン

Boy Scout of Philippines(BSP) 【Dialogue for Peace】

Tagaytay International Convention Center(TICC), Tagaytay(下図のピンの位置) 【APRSYF】

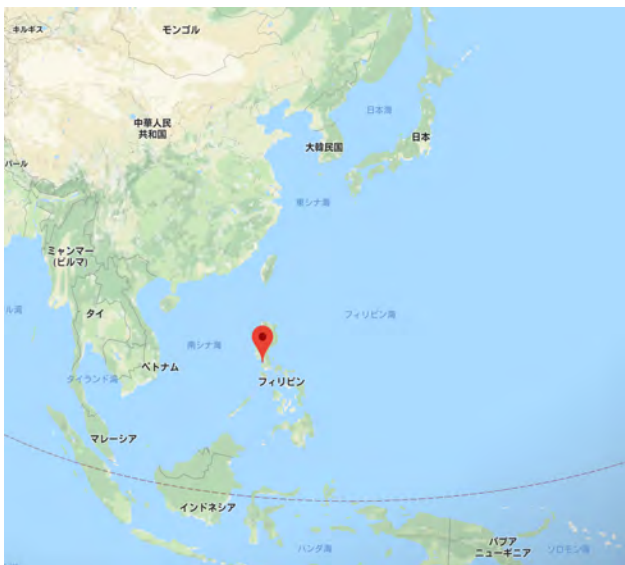
Calauan,Santo Tomas 【Habitat for Humanity】

The Philippine International Convention Center(PICC), Manila 【APRConf】

派遣目的:

日本のスカウトの代表としてこのユースフォーラムでスカウトの仲間と討議をすることによって、青年スカウトとして必要な資質の向上を図り、参加各国スカウトとの親善交歓により国際理解と友情を深め、将来へのつながりを作ること。

現在世界で最も急成長しているアジア太平洋地域の一員として、互いの知見を持ち寄ることで、社会的な課題を解決する糸口を見つけること。APR及び他国連盟のスカウト活動に関する考え方を日本に持ち帰ること。



2.2 フィリピンについて

公用語 : フィリピン語、英語
 人口 : 100,981,437人 (2015年)
 スカウト人口: 2,689,809人(2018年)
 通貨 : フィリピンペソ

フィリピンはAPR事務局が置かれており、国家としても強くスカウト運動を推し進めているといえる。学校教育にボーイスカウト運動が取り上げられている国も多いアジア太平洋地域は、世界中でもスカウト人口が多い地域(WOSM事務局もマレーシアに設置)であるが、なかでもフィリピンでの力の入れようはひときわ目を見張るものがある。今回の第26回APRスカウト会議で配布された資料には、現大統領ロドリゴ・ドゥテルテ氏から激励の言葉が届くほどである。

2.3 派遣日程

10月8日(月)	
07:30	成田空港到着
09:30	成田空港出発
*11:30	フィリピン ニノイ・アキノ国際空港到着 フィリピン連盟(BSP)へ移動
*18:00	タガイタイ市 フォーラム開催地へ移動
10月9日(火)-10月12日(金)	
APRスカウトユースフォーラム開催	
10月13日(土)	
インターイベント その後マニラ市へ移動	
10月14日(日)	
自由時間	
10月15日(月)-10月20日(土)	
APRスカウト会議開催	
10月21日(日)	
*06:40	フィリピン ニノイ・アキノ国際空港出発
12:10	成田空港到着 解散

*が付いている時間はフィリピン標準時間(GMT+8)

2.4 派遣員紹介

	<p>太江田 真樹 (Maki)</p> <p>大分県連盟 由布第2団ローバースカウト隊 APRSYF 正代表 APRConf オブザーバー</p>
	<p>小池 明日香 (Asuka)</p> <p>大阪連盟 大阪第21団 ボーイスカウト隊副長補 APRSYF オブザーバー APRConf 青年代表</p>
	<p>尾形 凜太郎 (Ling)</p> <p>宮城県連盟 仙台第28団ローバースカウト隊 APRSYF 正代表 APRConf オブザーバー</p>
	<p>仙田 雅大 (Semple)</p> <p>東京連盟 東村山第6団ローバースカウト隊 APRSYF オブザーバー APRConf オブザーバー</p>

3. 第9回APRスカウトユースフォーラム

3.1 第9回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム概要

第9回アジア太平洋地域スカウトフォーラム(9th Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum: 9th APRSYF)とは、アジア太平洋地域に所属するスカウトへの議論の場として、27の連盟(NSO)や組織体(NSA)から123名のスカウトが集い、4日に渡って開催された。

目的

スカウティングに関わる若い年代が、自らが興味を抱いた問題に対する意見や助言を行う機会を提供し、また意思決定の過程に参画する為の能力を強化するのに必要な技能を向上させること。同時に、世界スカウト機構(World Organization of the Scout Movement: WOSM)に対し、若い世代の意見や助言に触れる機会を、地域や国家そして現地のレベルで提供すること。

目標

- 1 興味のあるトピックに関する討議と意見共有を通じた、学びの環境の提供
- 2 参加者の、スカウティングや一般的な社会における意思決定技能の向上
- 3 参加者間における友情を生み出し、フォーラム内だけに留まらない継続的なネットワークの創造
- 4 スカウト会議に提示されるであろう、実質的価値を持つ協力、提言、助言を提供

主催 世界スカウト機構アジア太平洋地域

共催 ボーイスカウトフィリピン連盟

期間 2018年10月9日-10月12日

会場 フィリピン タガイタイ タガイタイ国際コンベンションセンター

テーマ Growth and Stability/成長と安定

派遣員数

4人(代表2人、オブザーバー2人)



3.2 フォーラムのスケジュール

10月9日(火)	
07:00 - 08:00	朝食
08:00 - 08:20	瞑想、連絡事項の伝達
08:20 - 10:00	導入セッション <ul style="list-style-type: none"> ・ 第9回APRSYF議長からの歓迎の言葉 ・ 主催委員会、計画委員会、YAMG、ゲストスタッフの紹介 ・ 議事日程表の採択 ・ 手続規則の採択 ・ フォーラムの目的、目標、行動方針(これには提言文の目的も含まれる)の紹介 ・ APRプログラム小委員会からの報告 ・ WOSMの簡単な概要紹介 ・ 地域での課題発見
10:00 - 10:30	ティーブレイク
10:30 - 12:00	開会式
12:00 - 12:30	写真撮影
12:30 - 14:00	昼食
14:00 - 16:00	午後のセッション <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営委員会、選挙委員会、審議委員会の概要説明 ・ ユースフォーラム運営委員の選出(以下のルールに従い、本フォーラムが選出する) <ol style="list-style-type: none"> 1. YAMG 2015-2018の議長(今回はBelinda)を含むこと 2. 主催連盟から1人のスカウトを含むこと 3. シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、タイ、ブルネイ、カンボジア、ミャンマー、東ティモールいずれか出身のスカウトを1名含むこと 4. オーストラリア、フィジー、キリバス、ニュージーランド、パプアニューギニアいずれか出身のスカウトを1名含むこと 5. 台湾、香港、日本、韓国、モンゴル、マカオいずれか出身のスカウトを1名含むこと 6. バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカいずれか出身のスカウトを1名含むこと
16:00 - 16:15	ティーブレイク
16:15 - 17:00	審議委員の選出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 審議委員会は以下のスカウトからなる <ol style="list-style-type: none"> 1. 十分に役務をこなすだけの言語運用能力があることに基づき、計画委員会に推薦された4名のスカウト 2. YAMG内で決まった1名のヤングアダルトメンバー

17:00 - 18:00	YAMGに関する説明 <ul style="list-style-type: none"> ・YAMGの概要説明 ・YAMG 2015-2018の報告 ・選出過程の説明 ・YAMG 2018-2021立候補者の説明
18:00 - 18:30	フォーラムにおける提言文の説明
18:30 - 19:00	選挙委員会の任命 <ul style="list-style-type: none"> ・選挙委員会は以下のスカウトからなる <ol style="list-style-type: none"> 1. 正代表またはオブザーバーから3名のスカウト(同じ連盟のスカウト、YAMG立候補者は委員になることはできない) 2. 1名のAPRサポートセンターの役員
19:00 - 21:00	夕食
21:00 - 22:00	ソーシャルナイト

10月10日(水)

07:00 - 08:00	朝食
08:00 - 08:15	瞑想、連絡事項の伝達 基調講演
08:20 - 09:00	セッション①: 青年の関与
09:00 - 10:30	まとめとグループワーク①のオリエンテーション グループワーク①、ティーブレイク
10:30 - 11:30	グループワーク①の報告
11:30 - 12:00	選出過程の説明、選挙委員の承認
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 14:00	YAMGの報告 フォーラムにおける提言文の説明
14:00 - 14:05	基調講演
14:05 - 14:30	セッション②: スカウト活動における若者への社会的影響
14:30 - 14:45	まとめとグループワーク②のオリエンテーション
14:45 - 17:00	グループワーク②、ティーブレイク
17:00 - 18:00	グループワーク②の報告
18:00 - 18:40	スカウト寄付金に関する説明
18:40 - 19:00	自由時間
19:00 - 20:00	夕食
20:00 - 21:30	インターナショナルナイト

10月11日(木)	
07:00 - 08:00	朝食
08:00 - 08:30	瞑想、連絡事項の伝達 基調講演
08:30 - 08:45	セッション③: スカウト活動におけるSDGs
08:45 - 10:00	グループワーク③
10:00 - 10:30	ティーブレイク
10:30 - 11:15	グループワーク③
11:15 - 12:00	グループワーク③の報告
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 17:00	エデュケーショナルツアー、夕食
10月12日(金)	
07:00 - 08:00	朝食
08:00 - 08:20	瞑想、連絡事項の伝達 基調講演
08:20 - 09:20	ワークショップ
09:20 - 10:00	グループワークの報告
10:00 - 10:30	ティーブレイク
10:30 - 12:30	YAMG 2018-2021の選出 <ul style="list-style-type: none"> ・選出過程の説明 ・YAMGの業務の再確認 ・YAMG立候補者への投票 ・YAMG2018-2021の発表
12:30 - 14:00	昼食
14:00 - 15:30	提言文に関する議論
15:30 - 16:30	提言文の採択 <ul style="list-style-type: none"> ・審議委員会のプレゼンテーション ・提言文に関する議論 ・採択
16:30 - 17:00	ティーブレイク
17:00 - 19:00	閉会式、夕食
19:00 - 21:00	提言文の採択
21:00 - 22:00	自由時間

3.3 トピックについて

本フォーラムでは3つのトピックについてグループディスカッションが行われた。1つのグループには様々な連盟からの正代表やオブザーバーが、地域的な偏りがないよう参加し、役職に囚われず活発な議論を展開した。

• Youth Engagement/青年の関与

青年の関与というトピックに基づき、グループディスカッションでは、各国連盟における青年の関与に対するより良い支援のために、アジア太平洋地域(APR)は何が出来るかという点に焦点が当てられた。参加者の主要な懸念の一つは代表者についてであった。多くの参加者が、自国の連盟だけでなく地域や世界レベルでの意思決定段階により多くの青年代表者が参加する必要性を主張した。また18歳未満の青年代表者についても懸念が挙げられ、少なくともそれぞれの連盟において仲間同士での情報共有ができていなければならない。さらには提案された役割が表向きのみである問題についても取り上げられ、青年の関与を推し進める上で重要なものとして議論された。



地域内の青年代表とオブザーバーは、リーダーと青年との間で世代間対話の必要性を議論した。各国連盟による青年の貢献と成果に向かうに際し得られる承認は、青年が評価されていると理解するために簡明に説明されなければならない。青年が意思決定過程に関わり、彼らの能力を広げるために、リーダーは青年により多くの機会を提供するべきである。リーダーと青年の知的格差は大きいと、小さくするべきである。

階級、年齢、権威の垣根を超えて、リーダーと青年との開かれた対話は、今後さらに拡大されるべきであり、そのコミュニケーションがより効果的になるような開かれた環境を設けるべきである。

要約として、

1. 青年の関与を考慮し、青年に自国連盟や地域のレベル、そしてそれぞれの意思決定過程において青年により権力を与えること。
2. 世代間対話を考慮し、リーダーと青年が自由に様々な問題に関してディスカッションでき、年齢や地位、その他隔壁を生じるような要因に関係なく、その意見が公開されるような環境を整備すること。

• Social Impact in Scouting for Young People/スカウト活動における若者への社会的影響

参加者に対し、自らのスカウティング経験の中で最も衝撃的であった思い出をグループ内で共有することからこのディスカッションは始まった。共有したのち、それぞれのグループの中で、一番感動した思い出を1つ決めて、他のグループへ紹介するために短い劇を行った。

他の人々に自らの思い出を共有することで、何か社会的な問題に直面した時、その問題に対する抽象的な枠組みを設ける代わりに、具体的な行動を起こす意味を再認識することができた。

この場で言及された1つの例としてCJKプロジェクトバングラデシュ派遣が挙げられる。台湾、日本、韓国、そしてバングラデシュの4カ国が協力して、バングラデシュの地方の村の発展を支援するものである。地域

社会への奉仕プロジェクトを考案し動かすことによって、スカウトはスカウト教育法の一つである「行うことによって学ぶ」を実践し、地域社会において前向きに役割を担うより良き社会人になるべく訓練される。

他にもスカウティングの影響は顕著であり、その中にはリーダーシップやチームワークトレーニング、心の知能指数、問題解決能力、地域社会への所属感覚などが含まれる。

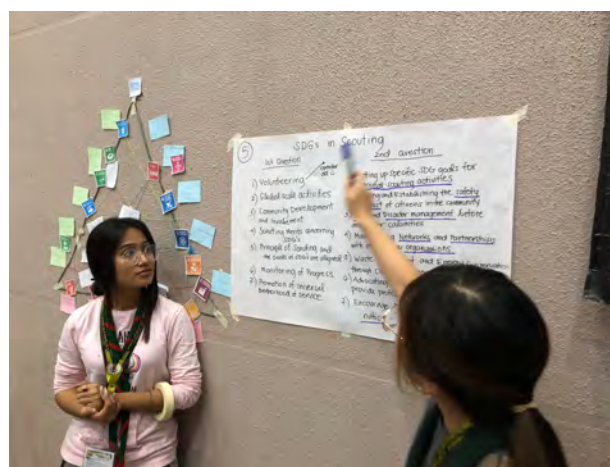
スカウティングの影響を社会に知ってもらうことは、スカウト運動がビジョン2023の達成に向かっていく上で極めて重要である。スカウト運動の影響とその世界に広がる組織を最大限に活用するための一つの方法は、各国連盟がスカウティングの良い影響が記述された書類を積極的に出版することである。ソーシャルメディアやマルチメディアも、スカウティングが持つメッセージを青年に広く伝えるために有効活用されるべきである。

•SDGs in Scouting/スカウト活動におけるSDGs

本フォーラム自体は、参加者がWOSMの掲げる青年参画方針(Youth Involvement Policy)を自覚するための一つの方法として、国連が掲げるSDGsが含まれている。国連のSDGsに対する理解や認識を深めようとしている連盟は非常に多く、国連のプログラムに対するより良い理解と、その応用へと繋がっている。

スカウト教育法と同じように、WOSMは様々なプログラムや新しい政策をより良い世界への枠組み(Better World Framework: BWF)に沿って打ち出している。つまり、連盟のメンバーで地域発展を目的に据え、それに向かっている。

ノンフォーマル教育運動として、スカウティングは様々な青年スカウトが、SDGsのもつ、それぞれの目標達成に向かい、革新と貢献を形成し、それに関わり実行することを目的としている。参加者と、政府や地元の組織との間に橋をかけることこそが発展しうる地域社会への取り組みとなる。



本フォーラムにて参加者はSDGsに対して次のような見解を示した。

1. バッジによって評価され、青年が価値を理解するであろう技能としてスカウティングと関わる
ことができる
2. 既存のプログラムによって評価され、様々な点在するプログラムをつなげるものとなる
3. 地域社会がより良き世界の形成に関わるために奨励される

各国連盟はSDGsの達成に対する評価とアワードを設けることで、SDGsの実践に関わることが強く奨励される。すべてのスカウトは正當に評価され、世界を変える行動をとるべきである。

スカウティングはその発足から110年、地域社会が求めることに反応し、それを満たすことをミッションとして始まり、現在につながっている。スカウティングの原理は神(仏)へのつとめ、自らへのつとめ、そして他者へのつとめであり、それらは本質的にSDGsと関わり合っている。ベーデン・パウエルが教えた、「Leave this world a little better than you found it」の言葉。この運動は今や、世界中で4000万人を超えるスカウトがより良き市民となり進められている。SDGsのほとんどの達成を支援するだけでなく、それ自体の発展を加速するものとして、スカウト運動は位置付けられている。



3.4 インターナショナルナイトについて

フィリピンの伝統舞踊である長い竹を用いたバンブーダンス(フィリピン語でティニクリンと言う)で幕が開かれ、この日のために招かれた舞踊団の息のぴったりと合った演技は自然と拍手が巻き起こるほど見事なものだった。バンブーダンスをはじめとして、それぞれの国と地域の踊りや衣装の披露がなされた。また同時に会場では国ごとに1テーブル分のブースが設けられ、食べ物や活動紹介などそれぞれの国色を伺うことができた。

日本からはPPAPダンスを披露した。日本では約3年前に流行し始め、世界にも広まったPPAPダンスだが、その人気ぶりは今も色褪せず、その独特なリズムとユニフォームがスカウトに人気のようだった。ユニフォームといえば、PPAPの時以外は主に浴衣と甚平を着用し、これらがまた非常に人気があった。他国の色鮮やかで雅な伝統衣装が並ぶなか、日本の装いもまた風情があり良いと思わせるような評判であった。

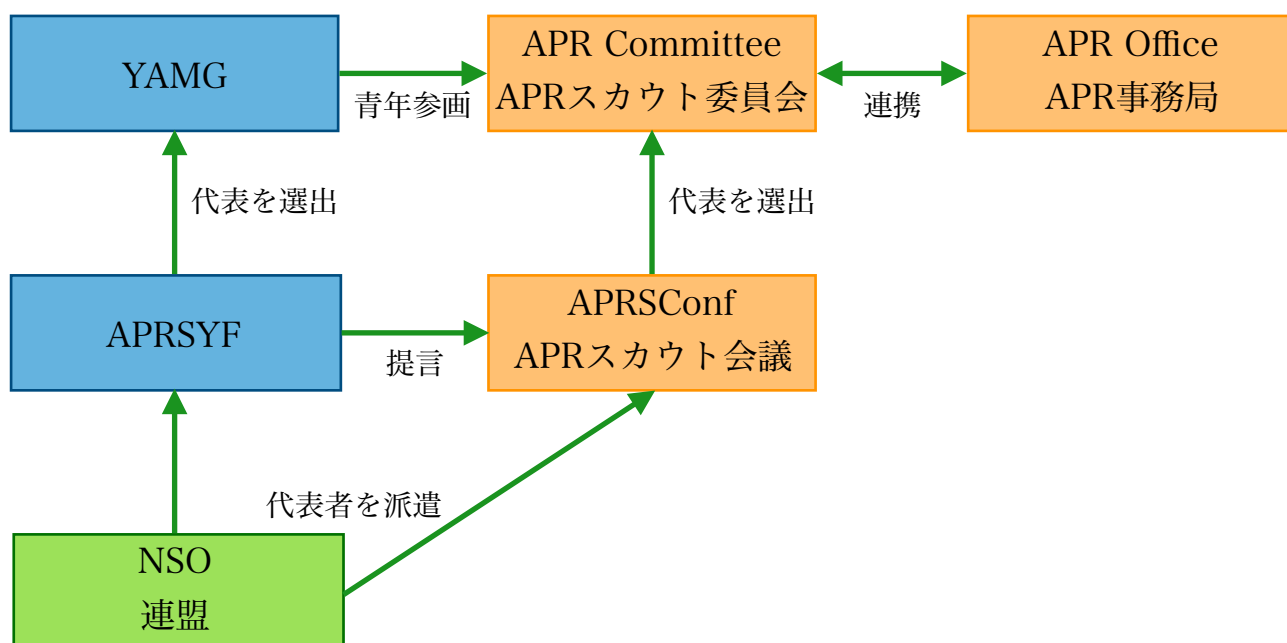
このイベントですべての国と地域が披露していた訳ではないが、ほとんどの国と地域が独自の文化を持っていることはAPRの特色ではないだろうか。それはまた議場で意見を交わしたスカウトたちが、それぞれどんな国のスカウトも互いの国の文化を尊重したうえで、自分の国の文化を紹介していた。多様な文化の混ざり合うアジアで、友好的な時間が流れていた。



3.5 APRスカウトユースフォーラムについて

WOSMの下に広がる161の連盟と組織(2015/11時点)は6つの地域に分割されている。これら全ての地域から代表スカウトが集うフォーラムが世界スカウトユースフォーラム(World Scout Youth Forum: WSYF)であり3年に1回開催されている。これと並行して、他地域とは1桁以上の差をつけて莫大な人数を抱えるアジア太平洋地域では3年に1回、アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム(Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum: APRSYF)が開催されている。このフォーラムはヤングアダルトメンバーズグループ(Young Adult Members Group: YAMG)とAPRスカウト委員会のもとにあるプログラム小委員会によって計画され、YAMGが中心となって進行される。トピック自体はそれが多様なディスカッションを展開できるよう漠然としたものが定められており、参加スカウトの投票に基づき、YAMGとプログラム小委員会によってフォーラム前に3つに限定される。そして各国連盟はそのトピックについて自国で話し合いを重ね、意見を固めてからフォーラムに参加する。

APRスカウトユースフォーラムは、APRにおけるスカウティングの取り組みや、YAMGの報告に始まり、その後10人前後のグループでディスカッションを行う。各グループで話し合った内容を全体で発表し、提言文を各国派遣団ごとに提案する。ディスカッションにおける明確な任務は言うまでもなく、ディスカッションの結果を、問題解決へのアプローチである提言文へと繋げることである。



3.6 YAMGとは

YAMGとは、本フォーラムに参加している参加者の中から選出され、9名からなる青年代表グループのことである。第8回APRSYFにて立候補の資格が与えられている年齢が18歳-23歳から、18歳-26歳に改正された。つまり選任時に26歳の誕生日を迎えていなければ、立候補できるようになった。また人数についても第8回APRSYFまでは6名であったが、第9回APRSYF以降は9名となった。しかし、今回は小委員会の数が5つであったため、地域委員会に所属するスカウトも含め6名が選出された。選出の際にはジェンダーバランスと地理的バランスが考慮されるため、1つの国や1つの小地域から複数名選出されることはほとんどない。選出された



YAMGは分担して地域小委員会やAPRスカウト小委員会に1人ずつ配属される。APRは地域レベルにおける青年参画の具体的な形として、実際の地域レベルでの組織運営に関わる機会の提供を意図している。またYAMGはユースフォーラムの運営委員会のサポートも行う。

本フォーラム最終日に今後3カ年のヤングアダルトメンバーが決定した。議長は地域委員会に、その他のメンバーは地域小委員会に出席する。メンバーは以下の通り。写真右から、

YAMG 2018-2021

Lim Wei Yung (Singapore)	Chair
Hassan Mohamed (Maldives)	Governance
Muhammad Naufal Bin Othman (Malaysia)	Scouting Profile
Daniel Ruan Chun Lin (Scouts of China-Taiwan)	Financial Resources
Kumar Ritesh Agarwal (India)	Adult Support
Chow, Yik-Man Edwin (Hong Kong)	Youth Programme

また本フォーラム自体はこの前の3カ年の終了でもある。2017年の世界スカウトフォーラムにて、YAMG議長であったMori Chengがユースアドバイザーに任命されたため、任期中に議長が変わった背景がある。それも踏まえ、2015-2018の最終的なメンバーを記述しておく。

YAMG 2015-2018

Belinda Wang (Scouts of China-Taiwan)	Scouting Profile(2015-2017), Chair (2017-2018)
Mori Cheng Chi-Kin (Hong Kong)	Chair (2015-2017)
Sonimeth Tan (Cambodia)	Management
Nur Sharifah Nurul Atik (Malaysia)	Youth Programme
Jayvy Gamboa (Philippines)	Financial Resources
EJ Jeong (South Korea)	Adult Support
Jeffrey Asher (India)	Scouting Profile (2017-2018)

3.7 提言文とは

提言文とはフォーラムや会議から何らかの組織体に対して、その改善向上を促すような文章のことである。APRスカウトユースフォーラムから提出される提言文は主に地域スカウト委員会や小委員会、各国連盟、またフォーラムの運営委員会(Steering Committee)や計画委員会(Planning Committee)などに向けたものであり、内容としてはユースフォーラムガイドラインの見直しやYAMG関連の予算の見直し、SDGsなど新たなプログラムへの取り組みに関して、その他GSATやNGO関連など様々なものもある。提言内容に加え、その背景(Context)や施行されるまでの期間についても明記する必要がある、賛成する連盟か、或いはグループ(Secondar)を最低一つ獲得して初めて提出できる。フォーラム最終日のディスカッションを経て、可決された提言のみがスカウト会議へユースの意見として提出される。



4. 提言文

4.1 最終宣言

以下に示す31の提言文は、タガイタイインターナショナルコンベンションセンターにて開催された第9回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムにて可決されたものである。

これらの提言文は本フォーラムで行われたディスカッションに基づくものであり、WOSMやAPR、APRに所属するすべての連盟、その他なんらかの組織に向けられたものである。次回のフォーラムや会議までにこれらの提言文に基づく行動がなされると期待している。

以下、本フォーラムの審議委員会(Recommendations Committee)のメンバーを記述する。多大な努力に感謝を申し上げる。

Recommendations Committee/審議委員会	
Theodorus Clarence Tessensohn	Chair
Lai, De-Yu	General Rapporteur
Mohamed Arshad Abdulla Saeed	Member
Nur Sharifah Nurul Atik binti Baharuddin	Member
Vincent Rijlaarsdam	Member

Recommendation 1

The Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum requests that the incoing YAMG and the Youth Programme Sub-Committee clarify the process to appoint a successor, should a vacancy occur, as stated below:

Guidelines for Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum, Part II, 9

If a vacancy of Young Adult Members occurs before the next Youth Forum, the candidate to be appointed as a successor will be according to the **highest number of votes received during the second round of election at the immediately prior** Youth Forum, and they will serve their term until the next Youth Forum.

This should be implemented before the 10th Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum.

Context

Currently, referring to Part II(The Young Adult Members Group) of Guideline for Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum Section II(Description and Eligibility) Clause 9, there is no specification on which round of election's order of higher votes received should be referred to appoint the successor of Young Adult Members Group(i.e. 1st Round or 2nd Round).

A vacancy occurred in YAMG occurs during the 2015-2018 term and there was no written to be followed by the officials. The written and specific appointment procedure of the successor is thus required and to be followed.

提言文 1

次期YAMGとユースプログラム小委員会は、YAMGに欠員が発生した場合、後任を任命する過程を以下のように明確化すること。

APRスカウトユースフォーラムガイドライン、第2章第2部第9節

もし次回のユースフォーラムより前にヤングアダルトメンバーの欠員が生じた場合、後任として任命されるものは直前のユースフォーラムで行った2回目の投票において最も多く得票した立候補者とし、次回のフォーラムまでを任期とする。

本提言文は第10回APRスカウトユースフォーラムより前に施行されるべきである。

背景

現在、APRスカウトユースフォーラムのガイドライン、第2章(ヤングアダルトメンバーズグループ)第2部(説明と資格)第9節によれば、後任のヤングアダルトメンバーとして任命を委ねられる立候補者は、何回目の投票(1回目なのか2回目なのか)において最も多く得票した者なのか詳述がない。

YAMGにおける欠員は2015-2018の期間に発生し、公式の文書に続くガイドラインには明記されていなかった。よって後任者任命過程の詳述は必要であり、理解されるものである。

Recommendation 2

The Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum requests the incoming YAMG submit two progress reports to the APR office throughout their term, making them accessible online and via circular.

The first report should be 18 months into the term, and the second report should be 3 weeks before the next Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum. This should be implemented starting from the next triennial(2018-2021).

Context

The YAMG should be obliged to keep Youth Forum participants updated with their work, by means of submitting a half-term progress report and a final report in order to:

- Inform the future Youth Forum participants about the outcomes of the work done by the YAMG so that questions or Points of information can be raised before or during the Forum.
- Inspire, involve and spark interest among the youth members in the region towards the Youth Involvement policies.
- Help NSOs that are interested to nominate a candidate to run for YAMG candidacy to put forth their best candidate.

提言文 2

次期YAMGは、任期のうちに2つの中間報告書をAPR事務局に提出し、オンラインと通達によって閲覧可能にすること。

1つ目の報告書は任期18ヶ月目に、そして2つ目の報告書は次回のAPRスカウトユースフォーラムの3週間前に提出されるべきである。

本提言文は次の3カ年(2018-2021)で施行されるべきである。

背景

YAMGは、ユースフォーラム参加者が取り組む課題を最新にしておくべきであり、中間報告書と最終報告書を提出することは以下のことを目的としている。

- YAMGが行なった活動の成果を未来のユースフォーラムの参加者に伝えること。
- 青年参画政策に向かい、この地域におけるヤングメンバーを奮起させ、参画させ、興味を駆り立てること。
- YAMGに立候補する立候補者の推薦に興味を持っている各国連盟が、最も優良な立候補者を選出することを援助すること。

Recommendation 3

The Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum requests the Asia-Pacific Regional Scout Committee to clarify the process of contacting the corresponding NSOs regarding the failure of Young Adult Members to perform their duties as follows:

Guidelines for Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum, Part II, 9(b)

A member of the Chairman is not performing their duties for more than three months or is not available for this period. In this case, the member and the corresponding NSO shall be contacted **through the Asia-Pacific Regional Support Centre** to request a clarification on their absence. If there is no response within 30 days, or the response is considered unsatisfactory after the evaluation by the Chairman of the Sub-Committee they are assigned to, the rest of YAMG may decide to have them removed from the position.

This should be implemented immediately upon approval from Youth Forum and the related committee(s).

Context

This clarifies the mechanism for contacting the corresponding NSOs should the need arise, especially regarding the responsible party making contact.

提言文 3

APRスカウト委員会は、ヤングアダルトメンバーが以下のように任務を全うできない状況に関して、関連のある各国連盟との連絡過程を明確化すること。

APRスカウトユースフォーラムのガイドライン、第2章第2部第9節(b)

議長に任命されているヤングアダルトメンバーが3ヶ月以上任務を全うしておらず、またはこの期間活動可能でない場合、そのメンバーとそのメンバーが属する連盟はAPRサポートセンターを通して、欠席に関する説明を求める連絡を受けなければならない。もし30日以内に返答がなく、またはそのメンバーが属している小委員会の議長がその返答を納得がいくものと評価しなかった場合、残りのYAMGはそのメンバーをその役職から解任する判断を下さなければいけない可能性がある。

本提言文はユースフォーラムと関連する委員会の承認を得たのち、即座に施行されるべきである。

背景

本提言文は、責任のある当事者が連絡を取り合うということに関して、このような事態が発生した場合に、当事者が属する連盟との連絡の仕組みを明確にする。

Recommendation 4

The Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum requests that the Regional Scout Committee and the Youth Programme Sub-Committee to encourage each NSO to recognize the 17 Sustainable Development Goals(SDGs), by means of:

- Reviewing current National Youth Programme and incorporating the SDGs elements into the Programme;
- Implementing new National Programme/Policies in relation to the SDGs; and
- Motivating Scout members to take the initiative to organize projects regarding the SDGs.

This should be implemented by the second quarter of 2019.

Context

Scouting and SDGs both aim to create a better world; it is therefore important for each NSO to recognize the importance in achieving the SDGs in its own capacity. It is to raise the awareness on SDGs among Scout leaders and youth members, and to the wider community.

提言文 4

APRスカウト委員会とユースプログラム小委員会は、各国連盟が17項目の持続可能な開発目標(SDGs)を以下の方法によって認識することを奨励すること。

- 現時点での国内のユースプログラムを見直し、プログラムの中に、SDGsの要素を取り込むこと。
- SDGsに関連した新しい国内プログラム/方針を実施すること。
- 加盟員がSDGsに関するプロジェクトを進んで開催するよう、意欲を起こさせること。

本提言文は2019年の第2四半期までに施行されるべきである。

背景

スカウティングもSDGsも、より良き世界の創造を目的としており、それゆえに各国連盟それぞれの形でSDGsを達成する重要性を認識することは、それぞれの連盟にとって重要である。同時にスカウトリーダーやユースメンバー、さらにはより広い地域社会の中でSDGsに関する認識を向上させることにもつながる。

Recommendation 5

The Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum recommends the Planning Committee for the next Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum includes a speaker that will discuss tools for working through intercultural communication barriers.

This would be implemented at the next Youth Forum.

Context

Observers and Delegates of the Asia Pacific Regional Scout Youth Forum are having a hard time communicating due to insufficient confidence, English-speaking skills and many other variables under the intercultural communication barriers. This could be resolved with a workshop and an input speaker that will discuss the ways on working through Intercultural Communication Barriers.

提言文 5

計画委員会は、次回のAPRスカウトユースフォーラムに、異文化間コミュニケーションの障害を乗り越えるための手段について話し合うような講演者を含めること。

本提言は次回のユースフォーラムにて施行されるであろう。

背景

本APRスカウトユースフォーラムのオブザーバーや正代表は、異文化間コミュニケーションにおける障害に影響され、自信の不足/不十分な信頼や英語運用能力、その他様々な要因によってコミュニケーションが困難である時があった。これは異文化間コミュニケーションの障害を乗り越えるための方法を話し合うワークショップや基調講演者によって解消されるであろう。

Recommendation 6

The Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum requests the Regional Scout Committee and Youth Programme Sub-Committee ensure that the host NSO and Forum Planning Committee are well-prepared in conducting the Regional Scout Youth Forum, in terms of:

- the venue for Youth Forum;
- the accomodation for Forum Participants;
- the arrangement of the Forum Programme;
- the delivery of information.

As changes are made, the host NSO must inform all participating NSOs of the change, no later than two weeks before the proposed event should take place. If the host NSO has to alter arrangements due to problems and issues that may arise, the host NSO should make sure that the changes would not affect the Youth Forum from achieving its objectives.

Context

For the present Forum, its venue has changed twice which led to a division among the participants into two hotels. Issues like these have undermined the objectives of the Forum, i.e. proposing recommendations as a whole delegation and developing friendships among participants. The Regional Scout Committee and Youth Programme Sub-Committee are responsible for ensuring that the Youth Forum meets its objectives by supervising and advising the host NSO and Forum Planning Committee. Also the information about the Youth Forum should be clearly and timely delivered to participants for their preparation.

提言文 6

APRスカウト委員会とユースプログラム小委員会は、以下の点において、主催連盟とフォーラム計画委員会が地域スカウトフォーラムを行うための準備が確実であることを確認すること。

- ユースフォーラムの会場
- フォーラム参加者の宿泊施設
- フォーラムプログラムの計画
- 情報の提供

もし何かしら変更があった際は、あらかじめ提案されていた行事が実施される最低でも2週間前までに、主催連盟はその変更点をフォーラムに参加する全ての連盟に伝達しなければならない。もし主催連盟が、さらなる問題のために、これは起こりうることであるが、変更をしなければならない場合、主催連盟はその変更がユースフォーラムの目標達成に影響を及ぼさないということを確認するべきである。

背景

現在のフォーラムにおいて、会場が二度変更になり、そのために参加者は2つの別なホテルに宿泊せざるを得なくなった。このような問題はフォーラムの目標を揺るがすことになった。すなわち、全員で提言文を作成することや参加者同士で友情を築きあうなどの目標達成が難しくなった。地域委員会とユースプログラム委員会は主催連盟とフォーラム計画委員会を監視し、助言をすることで、フォーラムがその目標を達成することを確実にする責任がある。それと同時に、参加者の準備に備え、ユースフォーラムに関する情報は簡明に、かつ迅速に参加者に伝達されなければならない。

Recommendation 7

The Forum recommends the Asia-Pacific Regional Scout Committee and the Youth Programme Subcommittee to support and urge each NSO to promptly develop their own:

- National Youth Involvement Policy, consistent with the World Scout Youth Involvement Policy
- National Youth Programme Policy, consistent with the World Scout Youth Programme Policy

This should be implemented by the 27th Asia Pacific Regional Scout Conference.

Context

Recognizing that the difference in the level of implementing the World Scout Youth Involvement Policy and World Scout Youth Programme Policy, this is a contributing factor in effective youth engagement in the respective NSOs. Given that these policies were passed in the 40th World Scout Conference, sufficient time has passed for NSOs to develop policies that are consistent with the world level policies. However, some NSOs are still facing difficulties in developing and implementing their own policies.

The forum believes that the Regional Scout Committee and its respective subcommittees are responsible for assisting its NSOs to develop their own policies.

提言文 7

APRスカウト委員会及びユースプログラム委員会は、各国連盟に以下の事を即座に発展させるよう支援し駆り立てるようこと。

- 自国の青年参画方針を世界の青年参画方針と一貫させる
- 自国の青年プログラム方針を世界の青年プログラムの方針と一貫させる

本提言文は第27回APRスカウト会議までに実施するべきである。

背景

世界の青年参画の方針と世界の青年プログラムの方針には(各国の)実施レベルに差があることを認める。この提言文は各国連盟における効果的な青年との関わりへの貢献要素となる。これらの方針が第40回世界スカウト会議で決議された事を考慮すると、各国連盟が世界レベルの方針に一貫させるには、すでに十分な時間が経過している。しかし、各国連盟の中には未だそれぞれの政策を発展、一貫させるにあたり困難に直面している国もある。

本フォーラムはAPRスカウト委員会及び各小委員会が、各国連盟それぞれの方針発展を支援する責任があると考えている。

Recommendation 8

To improve the development opportunities available for members of Scouting in the Pacific Islands and enable growth in this area, the Asia-Pacific Regional

Scout Youth Forum recommends that within this triennium the Asia-Pacific Regional Scout Committee review the support available for the Pacific Islands and commit appropriate investment in their programme and programme delivery.

Context

There are limited resources within many Pacific Islands, and this has a significant impact on the involvement of youth in Scouting and the programme that is offered to them.

提言文 8

太平洋諸島のスカウトに役立つ発展の機会の改善向上、及びその地域の成長を可能にする為に、この3カ年の間にAPRスカウト委員会は、太平洋諸島への可能なサポートを再検討し、プログラムとプログラム運用への適切な投資費用を割くこと。

背景

太平洋諸島内では資源が限られており、本提言文はスカウティングにおける青年参画と太平洋諸島に提供されるプログラムに大きな効果を生むだろう。

Recommendation 9

The APR Scout Youth Forum recommends that the APR Scout Committee provide leadership training to NSOs that do not have rover scouts. This training will help to produce Scout Leaders that can then initiate Rover Scouting in universities and colleges in that respective NSO. This should be implemented by 2021.

Context

Some NSO's do not have rover scouts and scouting ends after secondary school so it would be advisable to extend the age limit for being a scout in these NSO's.

提言文 9

APRスカウト委員会はローバースカウトが居ない各国連盟に対してリーダーシップトレーニングを提供すること。このトレーニングは各国連盟の大学や専門学校でローバースカウティングを開始することが出来るスカウトリーダーを輩出する手助けになるだろう。本提言文は2021年までに施行されるべきである。

背景

各国連盟の中にはローバー部門を設けておらず、高校の後にスカウト活動が終わってしまう国もあるため、各国連盟においてスカウトでいられる年齢が延びることは望ましい。

Recommendation 10

Acknowledging Resolution 3.6 from the 25th Asia-Pacific Regional Scout Conference held in 2015 which stated:

“The Asia Pacific Regional Finance Sub-Committee to review the funding for the Young Adult Members Group, to provide adequate funding for them to fulfill their role and responsibilities.”

And acknowledging that the current guideline of the Asia- Pacific Regional Youth Fund was approved by the Asia- Pacific Regional Scout Committee in 2006 and the guideline has not been reviewed or revised since its inception;

And acknowledging the impact on equitable opportunities and diverse applicants from the current financial requirements to be a member of the Young Adult Members Group;

The Youth Forum recommends the Asia-Pacific Regional Finance Sub-Committee review the APR Scout Youth Fund Guideline to assist the Young Adult Members in their travel costs, representing the YAMG in Sub-Committee meetings and other events, by providing flexible and sufficient financial assistance, by the end of 2019.

Context

The outgoing YAMG members have spoken about the financial impact required to attend events expected as part of being a YAMG member. This significantly affects the young people who are able to be nominated for the YAMG and their ability to participate fully as a YAMG member.

提言文 10

2015年に開催された第25回APRスカウト会議での決議文3.6によると

「APR財政小委員会は、YAMGがその役割と責任を果たすための十分な財政支援を行うために、彼らへの基金の見直しを行うこと。」

また、現在のAPRユース基金のガイドラインが2006年にAPRスカウト委員会に認められた事と、そのガイドラインが書かれて以降、再検討、改訂されていない事を認め、

また、YAMGの一員になるための現在の財政的な必須条件から様々な立候補者と公正な機会の影響を認め、

APR財政小委員会は、柔軟な供給と十分な財政面の支援を提供することで、YAMGの旅費を支援するために、APRユース基金ガイドラインを2019年の終わりまでに見直し、ヤングアダルトメンバーはYAMGを代表して小委員会の会議やその他の行事に参加すること。

背景

積極的なYAMGのメンバーはYAMGの一員として予定されているイベントに参加するのに必要な財政の影響について言及し続けている。この事はYAMGに選出される青年と、YAMGのメンバーとして十分に参加出来ることに重大な影響を及ぼす。

Recommendation 11

The Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum recommends that the Asia-Pacific Regional Scout Committee improve the available resources distributed to NSOs in relation to SDGs.

The Asia-Pacific Regional Scout Committee can work on enhancing existing resources from organisations such as United Nations to be used in the context of the Scouting Movement and its Youth programmes.

These should be available in the next triennium.

Context

Information should be provided in an organised manner to every NSO for distribution to their grassroots level. Besides serving as an initiator for SDG-related programmes, these resources can equip Scouts with the knowledge and exposure towards SDGs, the direction the NSOs are taking, and the goal and mission of the Asia-Pacific Region.

提言文 11

APRスカウト委員会は各国連盟のSDGsに関する、各国連盟に分配された利用可能な資源を活用すること。

APRスカウト委員会は、国連のような組織から得られる、スカウト運動とその青年プログラムの環境で使われている既存の資料の改善に取り組むことができる。

本提言文は次の3カ年において有効となるべきである。

背景

各国連盟の草の根レベルにある団へ整理された方法で情報を提供すべきである。SDGsに関連するプログラムの創始者として役に立つだけでなく、それらによってスカウトは、SDGsへ各国連盟のやり方で向かうための、そしてAPRの目的やミッションに向かうための知識と経験を身につけさせることができる。

Recommendation 12

The Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum recommends that the Asia-Pacific Regional Programme Sub-Committee:

- Place more emphasis on including the SDGs in programme, alongside its existing responsibilities.

This includes initiating, supporting and overseeing the implementation of programmes aimed to achieve the SDGs in every NSO of the Asia-Pacific Region.

This should be implemented in the next triennium.

Context

In the APR region, there are NSOs that are well-equipped with knowledge (about SDGs) and the ability to run SDGs related programmes and there are NSOs that have not been fully exposed to SDGs as well.

By requesting the Programme Sub-Committee hold responsibility over SDGs, more exposure, awareness and support to initiate SDGs programmes can be given to NSOs within the region.

提言文 12

APRユースフォーラムはAPRプログラム小委員会に以下の内容を提言する。

- SDGs自体の責任と並行し、プログラム中にSDGsを含めることに重点を置くこと

これはAPRの各国連盟におけるSDGs達成することを目的としたプログラムの実行における創設、サポート、監督を含む。

本提言文は次の3カ年において施行されるべきである。

背景

APRには、SDGsに関する知識とプログラムの運営能力が十分に備わっている連盟があるが、一方でSDGsに十分に触れていない連盟もある。

プログラム小委員会に対しSDGs全体にわたる責任を持つよう要求することで、SDGsプログラムを開始するための、より多くの接触、自覚、そして支援が地域内の各国連盟に与えられる。

Recommendation 13

The Youth Forum continues to recommend and urges that the proportion of people under the age of 30 on the Asia- Pacific Regional Scout Committee be increased within the 2018-2021 triennium.

Context

It has been recommended and resolved by a number of Asia- Pacific Region events that the proportion of young people on the Regional Scout Committee should be increased. It is important that we continue to show our support for this progress and ensure that we are moving towards this outcome.

Acknowledging Resolution 3.1 from the 25th Asia-Pacific Regional Scout Conference held in 2015 which stated:

“In accordance with the World Scout Youth Involvement Policy, and the inclusion of increased Youth Involvement in the APR Strategic Plan and WOSM Strategic Plan, our region must more actively engage young people in decision making positions.

It is stated in the World Scout Youth Involvement Policy that “Youth Involvement is a capacity-building process, based on enabling young people to actively share responsibility with adults for making decisions...” ”

The Asia-Pacific Regional Scout Committee should:

Add one additional position on the YAMG for the role of Vice-Chair, increasing the overall membership to seven;

Include this additional YAMG appointment on the Regional Scout Committee, increasing the overall membership of YAMG Members on the Asia-Pacific

Regional Committee to two.”

And acknowledging Recommendation 4 from the Asia-Pacific Regional Youth Involvement Workshop held in July 2018 which stated:

“To increase the level of youth representation in Asia-Pacific Regional Scout Committee, the Workshop recommends that, in addition to the Chair of Young Adult Member Group, at least one member of the Committee must be under the age of 30 at the time of election.”

提言文 13

ユースフォーラムはAPR3カ年計画の中に、APRスカウト委員会において30歳以下の人々の比率を増やすように推奨する。

背景

地域スカウト委員会の若者の比率を増加させるために多くのAPRのイベントで、提案されて解決されてきた。この進歩を我々が支持していることを表明し、かつこの結果に向かって我々が確実に前進していることを示し続けることは非常に重要である。

2015年に開催された第25回APRスカウト会議で承認された提言文3.1より:

「青年参画方針・ユースのかかわりを増やすことを含んだAPR戦略案やWOSM戦略案によれば、私たちの地域は意思決定の立場にもっと積極的に若者を参画させなければならない。

青年参画方針には『青年参画とは意思決定において、若者が大人と積極的に責任を共有できるということに基づく、能力構築の過程である』と書かれており、

APRスカウト委員会は、

- YAMGに副議長の役職を追加して、全体で7人にすべき
- 新たに任命されたヤングアダルトメンバーを地域委員会に含め、7人になったYAMGの中から2人をAPR委員会に出席させるべき」

2018年7月に開催されたAPR青年参画ワークショップで承認された提言文4より、

「APRスカウト委員会のユース代表の水準を向上させるために、ワークショップでの提言にて、特にYAMGの議長だけでなく、委員会の一人は選挙の時に30歳を下回っていないなければならない、との提言文が提出された。」

Recommendation 14

The Asia-Pacific Regional Youth Forum requests the Asia-Pacific Regional Scout Committee support NSOs to increase youth representation by 10% in their national decision-making body/ies.

This should be ongoing, starting with the next annual planning cycle of NSOs.

Context

NSOs should follow the example of having youth representatives in the decision-making process on the regional and worldwide level of the Scout Movement (e.g. YAMGs in the Regional Committee and Subcommittee), in order to improve youth engagement in the decision-making process.

提言文 14

APR委員は、各国連盟の意思決定機関の10%までユースの出席を増やすこと。

これは現在進行であるべきであり、各国連盟の次の年度から始めるべきである。

背景

各国連盟は、意思決定機関にユースの関わりを高めるために、地域レベル、世界レベルでのスカウト運動においてユースが意思決定機関に関わっている例(地域委員会や地域小委員会のYAMGなど)に各国連盟も習うべきである。

Recommendation 15

Acknowledging Resolution 9 from the 25th APR Scout Conference held in 2015 which stated:

“Recognising the significant importance of gender equity towards growth of Scouting, all member NSOs open to boys and girls are strongly encouraged to take deliberate action to ensure nominations of women alongside men for the APR Task Forces, Subcommittees and the Regional Scout Committee.”

And acknowledging Recommendation 3 from the APR Youth Involvement Workshop held in 2018 which stated:

“To increase the level of youth involvement in the Asia- Pacific Region Sub-Committees, the Workshop recommends that:

- at least 40% of the Sub-Committee nominees from each NSO should be under the age of 30; and
- a minimum of 40% of the selected sub-committee members should be under the age of 30.

To assist NSOs and APR in reaching these targets:

- Young members should be considered for developmental and mentoring opportunities, e.g. APR Workshops;

- The Finance sub committee should undertake a view of funding schemes in other regions to support young people participating at the Regional level;
- The minimum age of attendance at Regional Youth Forums/Conferences be reduced to 15 years of age;
- Applications for subcommittees should be promoted widely as an open call. Applications are submitted directly to the APR Support Office, with each NSO's approval being sought by APR once applications are received."

The Youth Forum recommends that for the 2021-2024 triennium:

- NSOs are encouraged to nominate members for subcommittees who are under the age of 30
- a minimum of 20% of the selected subcommittee members should be under the age of 30 at the time of their appointment

Context

APR events continue to recommend that the proportion of young people on APR subcommittees should be increased. It is important that we continue to demonstrate the need for progress in this area.

提言文 15

2015年に開催された第25回APRスカウト会議で承認された提言文9より:

スカウティングの成長に向かうに際しジェンダー平等の重要性を強く認識することで、少年少女に平等な各国連盟の全てのメンバーは、APR タスクフォース・小委員会・地域スカウト委員会へ男性と共に女性の任命を確実にする為に、計画的な行動をとることを強く推奨する。

2018年7月に開催されたAPR青年参画ワークショップで承認された提言文3より、

- ワークショップではAPR小委員会の青年参画の水準を増加させるために、
- それぞれの各国連盟からの小委員会への立候補者の40%は30歳未満にすべきである。
 - 小委員会委員に選ばれる少なくとも40%は30歳未満にすべきである。

各国連盟とAPRがこれらの目的を達成するために、

- 若者へAPRワークショップのような発展していて充実した機会を検討するべきである。
- 財務小委員会は若者が地域レベルへ参加できるような補助のために、ほかの地域の資金計画を参考にすべきである。
- 地域フォーラムや地域会議に参加できる年齢制限を15歳まで下げるべき
- 小委員会の応募をより広く広範囲に促進すべきである。

一度申請が受領されたら、各国連盟からの承認はAPRによって要求されるので、申請はAPRサポートオフィスに直接提出される。

次の3カ年計画において、

- 各国連盟へ30歳未満の小委員会委員を任命することを推奨する。
- 応募時に30歳未満の小委員会委員の少なくとも20%が選ばれるべきである。

背景

APR小委員会の若者の比率の向上することを、APRのイベントは提言し続ける。私たちはこの地域の発展のために必要なことを実証させ続けていくことが重要である。

Recommendation 16

The APR Scout Youth Forum proposes that a clause regarding the consideration of English competency of candidates in the election of the Steering Committee of the APR Scout Youth Forum be added in the APR Youth Forum Guidelines.

This should be implemented by the next Youth Forum.

Context

As of the 9th APR Scout Youth Forum guidelines, competence in English is enshrined in the guidelines for the selection process for the Recommendations Committee. One of the responsibilities of the Steering Committee is to prepare the Youth Forum Report, which is accessible to the public. Therefore, competence in English should be taken into consideration when selecting members of the Steering Committee.

提言文 16

APRユースフォーラムガイドラインに対して、APRスカウトユースフォーラム運営委員会の選出に、候補者の英語能力の考慮に関する条項を加えること。

この提言文は次の(筆者加筆：APR)ユースフォーラムまでに改善されるべきである。

背景

現時点の第9回APRユースフォーラムガイドラインより、審議委員会の選出過程において、ガイドラインの中に英語の能力が記されている。運営委員会の役割の一つとして、ユースフォーラム報告書(外部に出版するもの)を用意することがある。それゆえ運営委員会のメンバーに選ばれるためには、英語能力を考慮する必要がある。

Recommendation 17

The forum recommends that the Programme Sub- Committee to provide the APR Scout Youth Forum with a written report of the progress and results of the Recommendations from the previous APR Scout Youth Forum, included as an official document of the Forum, with the circulars before the Forum.

Context

As observed in 9th APR Scout Youth Forum, the oral presentation from the APR Programme Sub-Committee is unable to cover details of the results, impact or challenges of the Recommendations from the previous APR Scout

Youth Forum, thus the participants cannot evaluate the actual outcome of the triennial.

提言文 17

プログラム小委員会は、APRスカウトユースフォーラムに、前回のフォーラムで決議された提言文の進捗と結果を記述した報告書を、フォーラムの公式書類としてフォーラムより前に提供すること。

背景

本APRスカウトユースフォーラムを見る限り、APRプログラム小委員会からの口頭報告では過去のAPRスカウトユースフォーラムの提言による結果や影響、課題を詳細まで記録することは不可能なので、参加者は3カ年計画の実際の結果を評価することはできない。

Recommendation 18

Acknowledging Resolution 4 from the 25th APR Scout Conference held in 2015 which stated:

“In accordance with the United Nations’ Gender-Sensitive Language guidelines, it should be resolved that the Asia- Pacific Regional Scout Committee update the Guidelines and Rules of Procedure for Asia Pacific Regional Youth Forum, so as to ensure gender neutrality.

The conference resolves:

- Replace the title of the Young Adult Members Group ‘Chairman ’with ‘Chair’;
- Replace any reference to the Young Adult Members Group ‘Chairman’ with ‘Chair’;
- Replace any reference to the Youth Forum ‘Chairman’ with ‘Chair’;
- Replace the title of ‘Chairman’ and ‘Vice Chairman’ of the steering committee with ‘Chair’ and ‘Vice Chair’;

Any other references to this title shall be amended in the light of this Resolution.”

And acknowledging that language is important for creating a culture of diversity and inclusion;

The Youth Forum continues to recommend that regional role titles are updated to be gender-neutral during this triennium.

Context

Language is important to support the inclusive culture required for good governance.

提言文 18

2015年に開催された第25回APRスカウト会議で承認された決議文4より:

国際連合の言語から見たジェンダー問題に対する取り組みによれば、APRスカウト委員会は、性差を中立にするために、APRスカウトユースフォーラムのガイドラインと手続規則を更新するべきである。

スカウト会議は

- YAMG議長の職名を「Chairman」から「Chair」に変更すること。
- YAMG議長の職名に関する表現を「Chairman」から「Chair」に変更すること
- ユースフォーラム議長の職名に関する表現を「Chairman」から「Chair」に変更すること。
- 運営委員会の議長、副議長の職名を「Chairman」から「Chair」に、「Vice Chairman」から「Vice Chair」に変更すること。

この職名に関するその他の関連書類に関しても、この決議文に基づき改訂されるべきである。

文化の多様性と包括を作り上げていくために言語が重要であることを認識し、

ユースフォーラムは次の3カ年の間に、性差中立にするべく地域の役職名の改定を継続して提言する。

背景

良い運営のために求められる、包括的な文化を支援するべく、言語は重要である。

Recommendation 19

The forum recommends that the APR support the development of youth leadership across the region by developing, hosting and providing financial support for a Youth Leadership Training Course (for participants aged between 18-30 year-old youth members and young leaders). Additionally, the region encourages NSOs to facilitate their own national leadership developmental programs.

Context

One of the strategic priorities, adopted by WOSM in 2014, states that the Youth Program should provide a non-formal learning environment, strengthening the capacity of young people to face the challenges of tomorrow. The Interamerican Region runs an Interamerican Leadership Course (ILT) every year. Two representatives, between the ages of 18-26, from each NSO in the region attend the 6-day leadership course per year. The ILTs vision is to 'strengthen Scouting in the Interamerican Region and its National Scout Organisations'. It aims to enable NSO representatives to learn leadership skills to 'better their home groups and NSO as a whole'.

The curriculum involves:

- Vision, goals and planning
- Conflict resolution

- Ethical leadership

Stages of team development

- Diversity and inclusion
- Emotional intelligence
- Leading virtual teams
- UN Sustainable Development Goals

After attending the ILT, participants are provided with an 'ILT in a box'. This contains resources to allow each NSO to successfully run an internal leadership program in their country, hence, upskilling their NSO. Since the ILT began, 5 years ago, 18 of the 34 NSOs in the Interamerican Region now have National Leadership Programs that would not have been possible without the support of the region. In 2018, the Interamerican Region committed to assisting all other regions in WOSM to create similar inter-region leadership courses. Six representatives from APR attended the course, with representatives from Australia, New Zealand and Japan. The purpose of this involvement was to upskill the regions to enable widespread leadership training across the world.

提言文 19

APRは、青少年リーダーシップ育成コース(18-30歳の若者と若手リーダーまでの年代のための講習会)のための資金援助を開発、主催、提供することで、当地域の青少年リーダーシップの発展を支援すること。加えて、各国連盟は、自国のリーダーシップ育成プログラムを促進すること。

背景

2014年にWOSMによって採択された戦略的優先事項には、ユースプログラムは、若者が直近の課題に立ち向かうための能力育成を行う、ノンフォーマルな学習環境を提供するべきである、と記述されている。インターアメリカ地域は毎年インターアメリカンリーダーシップトレーニングを運営している。同地域の各国連盟から2名の、18歳から26歳の代表者が、年に6日間開催されるそのリーダーシップトレーニングに参加する。ILTのビジョンは、「インターアメリカ地域とその連盟におけるスカウティング強化すること」である。各国連盟の代表者が「彼、彼女らが属する団とNSO全体をよりよくするための」リーダーシップのスキルの習得を可能にすることを目的としている。

カリキュラム内容：

- ビジョン、目的と計画
- 紛争解決
- 倫理的リーダーシップ

チーム発展の段階

- 多様性と包括
- 心の知能指数
- バーチャルチームの統括

- 国連のSDGs

ILTに参加した後、参加者には「ILT in a box」が提供される。「ILT in a box」には、各NSOが国内でリーダーシップ・プログラムを成功裏に実行できるようにするための資料が含まれており、それゆえに連盟のスキルアップが望まれる。5年前にILTが開始されて以来、インターアメリカ地域の34のNSOのうち18は現在、その地域の支援なしには実現できなかったであろうNSO独自のリーダーシップ・プログラムを行っている。2018年に、インターアメリカ地域は類似した地域間リーダーシップコースを創設するために、WOSMのたの全ての地域の支援に貢献した。アジア太平洋地域からはオーストラリア、ニュージーランド、日本からは計6人の代表者が参加した。この行事への関与の目的は、リーダーシップトレーニングが世界中で幅広く普及されるようにまずアジア太平洋地域でのそれをスキルアップさせることだった。

Recommendation 20

The Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum requests the Asia-Pacific Regional Programme Sub-Committee update the Guidelines and Rules of Procedure for the Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum, so that the Recommendation Sub-Committee comprises of:

- One delegate from either – Singapore, Malaysia, Indonesia, Philippines, Thailand, Brunei, Cambodia, Myanmar, Timor Leste;
- One delegate from either – Australia, Fiji, Kiribati, New Zealand, Papua New Guinea;
- One delegate from either – Republic of China, Hong Kong, Japan, Korea, Mongolia, Macau;
- One delegate from either – Bangladesh, Bhutan, India, Maldives, Nepal, Pakistan, Sri Lanka;
- One member of the YAMG, decided among the YAMG; and
- One General rapporteur to be chosen or elected from the Forum delegates.

The Forum delegates will choose or elect their representatives from their respective sub-region at the beginning of the forum, after the election of the Steering Committee.

NSOs that are elected to the Steering Committee should preferably not be on the Recommendation Sub-committee.

Context

As the Recommendation Sub-Committee have the responsibility and right to modify draft recommendations submitted by delegates, and to encourage the discussion and debate of recommendations, it is preferred that they are chosen or elected from each sub-region to ensure equal representation and more direct contact between delegates and the administrative structure.

提言文 20

審議委員会は以下の人物から構成されるため、APRプログラム小委員会はAPRスカウトユースフォーラムのガイドラインと手続規則を更新するよう要請すること：

- シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、タイ、ブルネイ、カンボジア、ミャンマー、東ティモールのいずれかからの1名の代表者。
- オーストラリア、フィジー、キリバス、ニュージーランド、パプアニューギニアのいずれかからの1名の代表者。
- 台湾、香港、日本、韓国、モンゴル、マカオのいずれかからの一人の代表者。
- バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカのいずれかからの1名の代表者。
- YAMGの中から一名の代表者。
- フォーラム代表者の中から1名報告官が選出される。

フォーラムの代表者は、フォーラムの初めと運営委員会の選出の後に、それぞれの小地域から代表者を選出する。

運営委員会の選挙後、選出された連盟は、同時に審議小委員会に立候補しないことが望ましい。

背景

審議委員会は、代表者から提出された提言文草案の修正と議論、討議を促す責任と権利を有する。審議委員は、代表者とそれを取り巻く管理構造における公平な代表権と直接的な連携を確保するためにそれぞれの地域から選出されることが望ましい。

Recommendation 21

The Asia-Pacific Regional Youth Forum requests that the Asia-Pacific Regional Scout Committee supports NSOs to build a network and regular communication system with local NGOs and governmental organizations.

Context

By working with other organizations, NSOs can provide and receive training and development for each other and their areas of expertise. This will provide Scouts will be able to learn from a broader curriculum of skills and knowledge. Young people are valuable resources when the community is in need of help (e.g. assistance after natural disaster). Establishing a network among NGOs can air preparation before this assistance is required.

提言文 21

APRスカウト委員会は地元のNGOや政府機関とのネットワークと定期的なコミュニケーションシステムを構築するために各国連盟を支援するよう要請すること。

背景

各国連盟は、他の組織と協力することにより各国間の相互進展と専門分野やトレーニングなどを提供・受けることができる。これにより、スカウトはスキルと知識を広範なカリキュラムから学ぶことになる。若者は、地域社会が支援を必要とする場

合(例えば、自然災害後の支援など)には貴重な人的資源である。NGO間のネットワークを形成することでこの支援が必要となる前に準備を表明することができる。

Recommendation 22

The Asia-Pacific Regional Youth Forum recommends that the Asia-Pacific Regional Scout Committee:

- In consultation with each YAMG member, assign a mentor to support their development during their term.
- Organize a professional development program for the members of the YAMG to participate in.

Context

The YAMG provides the Asia-Pacific Region with the opportunity to support and develop young leaders.

Each member of the YAMG is tasked with sitting on Regional Subcommittees and advocating youth issues within the Region. These are significant bodies of work that the YAMG members undertake. For the YAMG members to successfully undertake these roles, it is imperative that the Region supports their skill and experience development.

提言文 22

APRスカウト委員会は:

- 各YAMGメンバーとの協議の上、任期中の発展支援のためにメンター1名を任命すること。
- YAMGのメンバーが参加するための専門的な開発プログラムを組織すること。

背景

YAMGは、APRに若手指導者を支援し、育成する機会を提供する。

YAMGの任務は、各メンバーそれぞれの地域小委員会に属し、その地域内のユース年代スカウト問題を提唱することである。これらはYAMGメンバーが請け負う重要な仕事である。YAMGメンバーがこれらの役割を遂行するためには、その地域が彼らのスキル向上と経験蓄積のサポートすることが不可欠である。

Recommendation 23

The Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum requests the Regional Scout Committee to raise the level of youth engagement during the planning of the Regional events (i.e. The Regional Jamboree, Moot, Youth Forum) in future.

Context

The level of Youth Engagement in planning Regional events should be raised for the fact that these events are essentially targeting the youth. Youth's opinion should be taken into account and valued during the consultation process. There should be platform available and accessible provided by the Region for young people to freely express their ideas or opinions.

提言文 23

APRスカウト委員会に対し、今後の地域イベント(ジャンボリー、ムート、ユースフォーラムなど)の計画段階における青年とのかかわりレベルを上げること。

背景

これらのイベントが事実として青年を対象としているため、そのような地域イベントを計画する際に青年との関わりレベルを上げる必要がある。青年の意見は、協議プロセス中に考慮され、評価されるべきである。若者が自分のアイデアや意見を自由に表現できるように、APRが提供する気軽に利用でき、且つアクセス可能な討論の場を設けるべきである。

Recommendation 24

Acknowledging Resolution 9 from the 25th APR Scout Conference held in 2015 which stated:

“Recognising the significant importance of gender equity towards growth of Scouting, all member NSOs open to boys and girls are strongly encouraged to take deliberate action to ensure nominations of women alongside men for the APR Task Forces, Subcommittees and the Regional Scout Committee.”

The Youth Forum recommends that the Asia-Pacific Regional Scout Committee take action to create a more equitable representation of genders in Asia-Pacific Regional governance bodies and throughout the Movement for the 2021-2024 triennium.

Context

Scouting is a movement which is open to all and is gender diverse. To accurately represent the membership of our global organisation it is imperative that our representative bodies accurately portray our diverse membership. If we want to inspire more individuals to raise their hand and for organisations to recognise their value and the significant contribution, the region must put strategies in place and focus on finding avenues for diverse. NSOs should be encouraged to focus interest in putting forward candidates that accurately represent their membership at a national and Asia-Pacific Regional level.

提言文 24

2015年に開催された第25回APRスカウト会議で承認された決議文9より:

スカウティングの成長に向かうに際しジェンダー平等の重要性を強く認識することで、少年少女に平等な各国連盟の全てのメンバーは、APR タスクフォース・小委員会・地域スカウト委員会へ男性と共に女性の任命を確実にする為に、計画的な行動をとることを強く推奨する。

2021年から2024年の3年間の運動を通じて、APRスカウト委員会はAPR統治機関においてジェンダーに関してより公平なメンバー構成を作成する行動をとること。

背景

スカウト運動はみなに解放され、ジェンダー多様性のある運動である。グローバルな組織のメンバーシップを正確に象徴するためには、我々代表組織が多様なメンバーシップを正確に表現することが不可欠である。より多くの個人が表に出るよう奨励し、組織がその価値と重要な貢献を認識するためには、地域を戦略に置き、多様な手段を見つけることに焦点を当てる必要がある。各国連盟は、連盟レベルおよび地域レベルでメンバーシップを正確に表す候補者を進出させることに関心を向けるよう奨励されるべきである。

Recommendation 25

The timing of the APR Scout Youth Forum and Conference impacts the educational and professional scheduling for participants.

To reduce the impact of the event timing on the ability for participants to attend and contribute to the APR Scout Youth Forum and Conference, it is recommended that the Regional Scout Committee review the time of year these events are held and adjust the 2021 events as required.

Context

It has been observed that the participation of a number of attendees has been impacted by, in particular, university deadlines. Therefore it is recommended that the time of year the event is held be reviewed to try and minimise the impact on participants.

提言文 25

APRスカウトユースフォーラムと会議の時期は、参加者の教育的および職業的なスケジュールに影響する。

参加者がAPRスカウトユースフォーラムおよび会議への出席とそこでの貢献能力にイベントの時期が影響することを軽減するために、APRスカウト委員会は、これらのイベントが開催される時期を見直し、必要に応じて2021年の開催を調整すること。

背景

大多数の参加者は、特に大学の締め切りによって影響を受けていると見られる。したがって、参加者への影響を最小限に抑えるために、イベント開催時期を見直すこと。

Recommendation 26

It is recommended that the Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum implement a preferential voting process where NSOs vote for all candidates in order. Each candidate with the lowest vote is redistributed amongst all

remaining candidates until the number of candidates match the number of available YAMG member positions.

Context

Currently, the method for voting for YAMG candidates involves two cycles of 3 votes, one for each candidate an NSO wishes to elect. This process doesn't allow for NSOs to vote for all candidates. As a result the process requires two rounds of voting and serves to convolute the voting process.

提言文 26

各国連盟がすべての候補者を順番に投票するような優遇投票プロセスを実施すること。候補者の数が必要なYAMGメンバーの数と一致するまで、最も低い投票を有する各候補者が残りのすべての候補者の中で再配分されている。

背景

現在、YAMG候補者に投票する方法は、各国連盟が投票したい候補者の一人につき3票を投票し、計3票を2回している。このプロセスは、すべての候補者に投票することを許可していない。結果として、このプロセスは2回に渡る投票行動を必要とし、投票プロセスが複雑化している。

これに代わる選択肢は、各国連盟が最も好ましいYAMG候補者から最も好ましくないYAMG候補者の順序ですべての候補者へ投票する優遇選挙を実施することであろう。そうすることで、最も好ましい候補者が確実に選出されることでより正確となると同時に、正確な投票数の表示の提供はもちろん、すべての票がYAMGメンバーの選出に向けて使用される。

Recommendation 27

The Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum proposes that the Programme Sub-Committee updates the Guidelines and Rules of Procedure for Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum and include the following:

“Candidate should disclose all conflicts of interest to the APR when running for the YAMG, and should give prompt notice to the other YAMG members, should any additional conflict of interest rise during their term.”

The Asia-Pacific Regional Scout Committee should also devise a clear “Conflict of Interest” policy as part of good governance practice.

Context

All governance forms should have “Conflict of Interest” guidelines.

提言文 27

プログラム小委員会は本フォーラムのガイドラインと手続規則を更新し、以下を含むこと：

「YAMG候補者には、追加の利害衝突が任期中に起こった場合を想定し、立候補している段階で、APRに関する全ての利害衝突を公開され、他のYAMGに速やかに通知されるべきである。」

APRスカウト委員会はまた、良い運営実践の一環として明確な「利害衝突」の方針を策定すべきである。

背景

すべての運営形式には「利害衝突」のガイドラインが必要である。

Recommendation 28

The APR Scout Youth Forum encourages each NSO within the Asia-Pacific region to create a goal to reduce carbon emissions by a percentage. This percentage should be an achievable amount for each NSO and should be used to challenge their NSO to create change. The method of how each NSO should reduce their carbon emissions should be relevant to each NSO and not be dictated by the region.

This should be implemented in the next 3 years.

Context

Many countries have already created a commitment to reducing carbon emissions within their own country. This initiative will allow scouts to be an example within the country to empower the community to make change. There is currently no specific commitment from scouts or the region towards lower carbon emissions.

提言文 28

APRの各国連盟は、炭素排出量を削減する目標をパーセンテージで設定すること。このパーセンテージは、各国連盟が達成可能な量でなければならず、各国連盟が変化を生み出すよう刺激を促すようなものであるべきである。各国連盟の炭素排出量の削減方法は、各国連盟で適切な対応すべきであり、地域が決定するべきではない。

これは次の3カ年以内に実施されるべきである。

背景

多くの国々はすでに自国の炭素排出量削減への取り組みを行っている。この自発的活動によりスカウトは、地域社会に変化を起こす力を持っているという、地域内の一例になることができる。現在、スカウトや地域からの炭素排出の削減に関する具体的な取り組みはない。

Recommendation 29

In alignment with resolutions from the World Scout Conference 2017 - 2010 and previous resolutions:

“The conference: calls upon Member Organizations to review and adopt policies which promote environmentally sustainable activities and practices

within their organisations, in line with previous Conference Resolutions 1988-06, 1990-12 and 1993-13;”

The Asia-Pacific Region should work towards lowering the carbon footprint at APR events. Events should track their carbon footprint at each event to create a yearly average. The events of the following year should work towards lowering this average during the running of APR events and programs. Each consecutive year should work towards lowering the average from the previous year. The footprint should be tracked using an appropriate apps or program to create the yearly average.

Context

Currently events within the APR are not held to account for the level of our environmental impact. There is no tracking mechanism or reporting available for events within the region to show and level of progression towards lowering our environmental impact.

提言文 29

世界スカウト会議2017 - 2010および前回の決議に沿って:

「会議では：前回の会議決議1988-06、1990-12、1993-13に沿って、組織メンバーは、組織内の環境的に持続可能な活動と実践を促進する政策を見直し、採択すること。」

APRは、APRのイベントにおける温室効果ガス排出量の削減に向けて取り組むべきである。イベントは、年間平均温室効果ガス排出量を作成するために各イベントで二酸化炭素を追跡する必要がある。翌年開催されるイベントは、APRイベントやプログラム中にこの平均値の低下に向けて働くべきであり、連続する年では、前年度より平均値をの低減に向けてに努力するべきである。温室効果ガス排出量は、年間平均値を算出するために適切なアプリまたはプログラムを使用して測定されるべきである。

背景

現在、APR内のイベントで、環境への影響レベルを説明するようなものは開催されていない。地域内のイベントのための、環境への影響の削減に向けた進展を示し、一定にするための有効な測定メカニズムや報告がない。

Recommendation 30

The Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum recommends the Asia- Pacific Regional Scout Committee and Governance Sub-Committee:

- Encourage the NSOs to audit their organizations with the Global Support Assessment Tool by the end of the 2018 – 2021 triennium.
- Ensure that NSOs develop the Action Plan and demonstrate significant progress on the Action Plan made after the GSAT.

Context

The Global Support Assessment Tool was developed by WOSM in 2013, however significant number of the NSOs in the Asia-Pacific Region are yet to undertake the GSAT. Given that GSAT is a tool to assess the compliance of the NSO at National Level against good governance best practices and quality Scouting, it will help NSOs to assess their strengths and areas of improvement, facilitating the process of capacity strengthening and improving accountability to stakeholders.

提言文 30

APRスカウト委員会とガバナンス小委員会は：

- 2018から2021年の3カ年満期までに、各国連盟にグローバルサポート評価ツール(GSAT)を用いて組織を監査すること。
- 各国連盟が行動計画を策定し、GSATの後に策定された行動計画について大きな進展を示していることを確認すること。

背景

グローバルサポート評価ツールはWOSMによって2013年に開発されたが、APRの大多数の各国連盟はまだGSATを実施していない。GSATが国内の運営の最良慣行とスカウト運動の質に関連して、国レベルで各国連盟のコンプライアンスを査定していることを考慮に入れると、それは各国連盟が、その強みと改善の範囲の評価をやりやすくし、その結果、能力強化の過程における円滑化、ステークホルダーの責任の向上などを応諾することを援助するだろう。ステークホルダーの説明責任を強化し改善する能力が円滑に進むであろう。

Recommendation 31

WOSM has made a commitment towards implementing SDG programs and the region should support NSOs to create and implement programs that support this commitment. The Asia-Pacific Region should create a series of workshops and/or webinars to raise awareness of sustainable development goals. These sessions should be run by a volunteer NSO or group of NSO's in a physical or web format. The sessions should include information to increase awareness of SDGs and be used to workshop the skills required to implement a project relating to SDGs. The session should run 4 times a year each with a focus on a specific SDG, with the possibility of 1 physical SDG session every 2 year. The theme of each session should change each time it is run to encompass all SDGs within a triennium.

Context

There are currently no awareness initiatives for SDGs within the region that is available to all NSOs. There is also limited awareness with the region regarding SDGs amongst the majority of youth. There is limited knowledge within the region about SDGs and how to implement programmes and the

initiative will educate people within the region about SDGs and how to create projects in their own countries.

WOSMはSDGプログラムの実施を公約した、そのためこれを支援するプログラムを作成し実施するために各国連盟を支援すべきである。持続可能な発展目標の認識を高めるために、一連のワークショップか(と)オンラインセミナーを作成すべきである。これらのセッションは、物理的またはウェブ形式で自発的な連盟または連盟のグループによって運営されるべきである。そのセッションにはSDGsの意識を高めるための情報が含まれ、SDGsに関連するプロジェクトを実施するために必要なスキルに関するワークショップ開催に使用されるべきだ。そのセッションは、1年に4回、特定のSDGに焦点を当てており、2年ごとに1回の物理的なSDGセッションの機会を含む。3カ年のうちにすべてのSDGsを網羅するために、各セッションのテーマは実行されるたびに変更する必要がある。

背景

現在、すべての連盟において有用なSDGsに関する新事業に対し、地域内では意識がない。また大多数のユースの中でのSDGsに関する意識も限られている。SDGsに関する知識についても地域内では不十分であり、プログラムを実施する方法についても理解が十分でない。そのような新事業は地域内においてSDGsに関する教育手段となり、自国においてどのようにプロジェクトを始めるか学ぶ場となるであろう。

5. Dialogue for Peace Awareness Workshopについて

5.1 概要

10月6日から7日にかけて、フィリピン連盟事務局でAPR ユースフォーラムに先立って開催された。派遣団からは太江田が参加した。このワークショップはKAICIID(カイシード)という政府間組織が主催しWOSMと協力して行われた。この組織の使命は国際的に「対話」を広め、紛争を防ぎ、解決することを目的に活動している。

スカウティングにおいては、さまざまな経歴、信念、文化、民族、国籍を持つ組織や個人がどのようにしてよりよくコミュニケーションを図り、協力できるかについて議論された。



そもそも「対話」とは何か？

ここでは世代、地域、文化、ジェンダー、世界の見方における相互の対話を意味している。「対話」とは個人やグループ間における安全なコミュニケーション手段であり、考え方や知識、理解、印象、認識の共有を目的としている。話題となっている問題に対する共通理解に達するためであり、それこそが与えられた対話の最も重要な部分である。

このワークショップでは、以下の4つの小テーマに基づいて進められ、それぞれの小テーマでは6人から8人のグループに分かれ、KAICIIDの指導を受けたスカウトによるアクティビティや各テーマの理解向上のための講義を受けた。以下、それぞれのセクションごとの要点と行ったアクティビティについて述べる。

- (1)Conflict/ 紛争
- (2)Peace building/平和構築
- (3)Identity/ アイデンティティ
- (4)Dialogue/対話



(1) Conflict/ 紛争

定義：紛争とは、互換性のある目標を持っているが、プロセスとアプローチが異なることを意味する2つ以上の当事者(個人または団体)間の関係である。(Abu-Nimer、1996)



写真にある絵は、冰山をイメージし、海面に現れているか否かで、日常に起こりうる紛争を目に見えるものと見えにくいものに分けたものである。

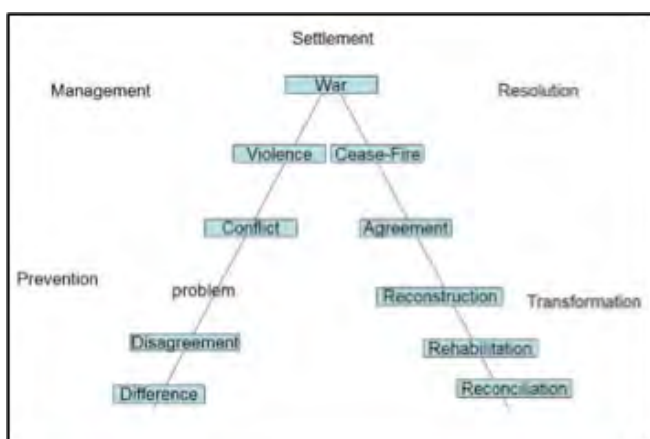
(2) Peace building/平和構築

・平和継続または平和維持に必要な要素は以下の「Transactional/取引的」、「Structural/構造的」、「Transformational/変容的」の3つに分類される。

Transactional/取引的	Structual/構造的	Transformational/変容的
調停 交渉 仲裁 問題解決 早期の警告	能力 建物 市民社会の構築 社会 メディア・NGO・人権・法の支配	対話 平和教育 自信 建築 復興

・平和構築マップ(Abu-Nimer and Diamond,1997)

図のようなマップを使い、戦争を頂点として5つの異なる段階ごとに指定されたカードをそれぞれの段階の流れに合うようにピラミッド式に並べる。5つの段階の詳細項目で実際に自分が経験した身近な事をグループメンバーにシェアする。



(3)Identity/ アイデンティティ

・ Power Dynamics of Identities/ 権力の力学

社会にはアイデンティティのヒエラルキーがある。アイデンティティは制度や規範、何かの儀式また価値などを通してアイデンティティの権益を守る。人を介さずに2つのサブアイデンティティの境界を見極めることはほとんど不可能であるが、アイデンティティは流動的で、暗黙の境界があり、そしてその多くはしばしば相互に関連する。そして、他の例ではないいくつかの場面において特権をもたらす。

・ 他者のアイデンティティを理解する

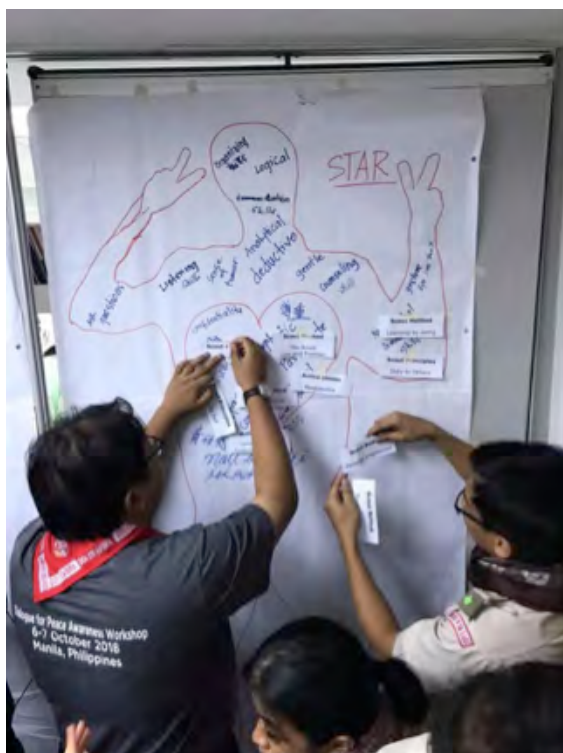
1グループ1つの民族を担当し、それぞれその国のスポーツや食べ物、習慣を把握し、その民族に成りきって他民族のグループと接する。その時に他民族をよく観察し、相手がどのような特徴を持っているかを考える。これは、他者をどのように認識し、形作っているかを考えるためのアクティビティである。



(4)Dialogue/対話

「対話」の相互理解の構成において、その影響について理解する前に、社会の一員として私たちは、出来事や前後関係の連続によって、人生を通して焼きついた思想や習慣、信念などの固有のコレクションを持っていることに気づいていることは、関係性がある。

これらの思想や習慣は異なる側面で私たちは何者なのか、何を与えてくれるのか



写真のように人が備え持っているスキルを模造紙に書いた体のパーツに当てはめ、書き出していく。その上で、「スカウト教育法」、「スカウトのちかい」、「良き社会人」の要素を書き出したスキルに当てはめていく。



スカウトと「対話」をキーワードとして両者が持つ原則を列挙すると以下ようになる。

スカウティングにおける3つの原則	対話における10の原則
1. スカウトのちかいとおきて 2. グローバルな良き社会人 3. スカウト教育法	1. 安全な場所を確立すること 2. 対話の主な目的は学びであることに同意すること 3. 適切なコミュニケーションスキルを使用すること 4. 対話に関する適切な基本原則を設けること 5. リスクを負い、その気持ちを表現し、その認識に正直に向かい合うこと 6. 関係性が先に来ること 7. 段々と難解な問題を扱う、段々とそこから離れていくこと 8. 困難な問題に立ちはだかっても断念せず、避けないこと 9. 先の変化を予測すること：一度対話に参加したら変化を予期する 10. 他に変化をもたらすこと

スカウティングにおける対話

- ・2人以上のスカウト仲間との間で自発的または計画的な会話をするとき。
- ・班で集まってあるトピックについて話し合うとき。その時に活動を計画したり、経験を共有したりする。
- ・スカウトとリーダーが個人の進歩について話し合うとき。個人的な問題や特定の活動やその他話題についての会話を含む。
- ・スカウトグループ内での共同チーム。
- ・オンラインでの国際交流、またはジャンボリーや会議などで集まる時。
- ・スカウト活動のプログラムの中で、地域で組織され、実施される活動。
- ・スカウト活動の最中と前後、そして生涯続いている。

参考資料：

KAICIIDホームページ(<https://www.kaiciid.org/who-we-are/our-partners/wosm>)
 WOSMホームページ内関連ページ(<https://www.scout.org/dialogue4peace>)
 Building Bridges Guide for Dialogue Ambassadors
 (https://www.scout.org/sites/default/files/library_files/Dialogue%20for%20peace_EN_FINAL_2018_WEB.pdf)

5.2 評価反省

APRスカウトユースフォーラムの前にこのワークショップを受けることは、たくさんの異なる宗教や文化を持つ地域において重要な取り組みであると感じた。他者を理解することは異文化理解の第一歩であり、「対話」は他者を理解するうえで大きな手助けとなる。スカウト活動は班制教育であり、その基盤は班内での対話によって、他者を理解するところから始まる。国家同士では、宗教や文化という違いに焦点が当たりがちだが、国家内では、とりわけジェンダーや世代の違いに焦点が当たる。しかしどちらも本質的には「対話」不足による認識の齟齬によるものではないかと感じた。国家や国家同士という枠組みを超えた取り組みもより重要になってくるのではないかと思う。

6. Inter event programme

6.1 概要

場所 フィリピン サント・トーマス

内容 Habitat for Humanityのプログラムへの参加

参加者 APRスカウトユースフォーラムとAPRスカウト会議の両方に参加するスカウト

日時 2018年10月13日(土)

行程:

10:00 ユースフォーラム会場出発

12:36 サント・トーマス到着

12:40 Tea Break

12:56 プログラム開始

14:00 順番交代でLunch

14:45 プログラム終了

14:51 サント・トーマス出発



6.2 Habitat for Humanityとは

貧困により劣悪な住環境に暮らす家族に非営利で無利子の住宅支援をする国際NGO。安心して暮らせる住まいは健全で豊かな生活を営むための基盤だと考え、家の建築支援に加え、衛生設備の設置支援や建築技術の普及、災害に強いコミュニティ作りなど、住まいの改善・確保、コミュニティ全体の発展を目指した支援に取り組んでいる。

主な事業内容:

- ・住居支援
- ・人道支援
- ・防災
- ・ボランティア活動
- ・若者育成支援 など



6.3 詳細内容

APRスカウトユースフォーラムとAPRスカウト会議の中日に行われた。今回のInter event programではWOSMとの政府間組織であるHabitat for Humanityのプログラムに参加した。実施内容としてはフィリピン国内の発展途上地域に行き、住民とふれあい、その地をこの目で見ながら奉仕活動を行った。具体的には家の外壁にペンキを塗った。

6.4 参加を通して

バスに乗り気づけば現地に着いていた。周りを見渡して思ったことは、これがフィリピンの田舎か、だった。木が生い茂り、大型台風が来れば飛ばされてしまうのではないかと思うような家が軒を連ねていた。子供が裸足で辺りを駆け回り、警察官は保安のためか銃を持ち見廻っていた。ふと戦後の日本を彷彿とさせる光景だった。私たちは4人1組になり、担当する壁面にそれぞれのチームごとに案内された。普段は家族が仲睦まじく暮らしているであろう建物の外壁の一面である。4人で手分けして塗るも上方は手が届かず、脚立に乗り全て塗り終えた。先日までのフォーラムとは、また変わった形での交流ができた。壁面の1部分ではあるが、炎天下での作業は思いのほか体力を消耗した。昼食後は現地の子供とふれあい、交流をした。笑顔で走り回る子供たちの数は、まわりの大人たちよりもはるかに数が多く、日本とは対照的な光景だと感じた。しかしWOSMのうちわをブーメランのように使い、遊ぶ様子はどの国でも共通なのだと微笑ましく思った。Habitat for Humanityに協力する方法は、お金を寄付する手段もある。しかし今回私たちは実際に現地へ赴き、その地に住む人々とふれあいながら活動ができた。今後現地へ行くことができず、お金を寄付する形での参画の時にも、今回のような気持ちを忘れないでおこうと感じた。また、この参加を通してHabitat for Humanityという団体を知ることができ、日本をと大きく異なる住宅事情を身を以て知ることができた。



7. APRスカウト会議派遣

7.1 概要

アジア太平洋地域スカウト会議とは、その開催前に開かれた委員会やフォーラムでの決議を集結し、地域としての最終的な決議を下す場である。各国連盟からコミッショナーや理事など、連盟で中心を担う成人スカウトと青年代表、オブザーバーが参加する。会議と同様に、日本連盟の所有する6票(6名の代表)のうち、1票は青年代表に配分されており、青年スカウトは形式上投票権を持つ。

本会議にて、次回開催国が台湾に決定したため、次回のAPRスカウト会議は2021年に台湾で開催される。

名称 第26回アジア太平洋地域スカウト会議

主催 世界スカウト機構アジア太平洋地域

共催 ボーイスカウトフィリピン連盟

期間 2018年10月15日~20日

会場 フィリピン マニラ フィリピンインターナショナルコンベンションセンター

テーマ Growth and Stability/成長と安定

マスコット MABUHAY



7.2 日本派遣団メンバー

日本派遣団の編成は以下の通りであった。(敬称略)

代表6名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水野 正人 副理事長・国際コミッショナー 首席代表 2. 中野 まり 理事・国際副コミッショナー 3. 嶋田 寛 国際委員長 APRスカウト委員会委員2018-2024 立候補者 4. 木村 公一 事務局長 5. 佐藤 栄保 事務局次長 6. 小池 明日香 青年代表
オブザーバー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鈴木 令子 理事・日本連盟副コミッショナー APRスカウト委員会委員2012-2018 2. 出田 行徳 理事 APRガバナンス小委員会2018-2024 立候補者 3. 大久保 秀人 理事・指導者養成委員長 APRアダルトサポート小委員会2018-2024 立候補者 4. 片寄 朗 評議員 APRアダルトサポート小委員会委員2015-2021 5. 松平 頼昌 社会連携・広報委員会副委員長 APRスカウティングプロファイル委員会委員 2015-2021 6. 竹内 和夫 日本連盟プログラム委員会委員(日本連盟委員会からの出席) 7. 鈴木 武道 神奈川県連盟(都道府県連盟からの推薦) 8. 尾形 凜太郎 第9回APRスカウトユースフォーラム参加者 9. 仙田 雅大 第9回APRスカウトユースフォーラム参加者 10. 太江田 真樹 第9回APRスカウトユースフォーラム参加者 11. 高野 夏樹 組織・管理部課長(事務局) 12. 大高 駿 組織・管理部職員(事務局)

7.3 日程

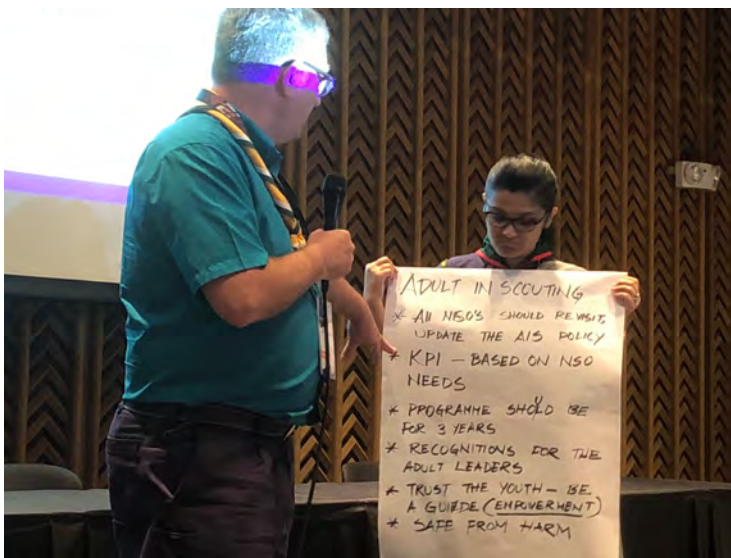
10月15日(月)	
	事前セッション フォトセッション 開会式
10月16日(火)	
	APRの3カ年報告 これからの3カ年計画の説明 APRスカウト委員会新委員選出選挙 選挙結果(当選者) -Mr. Elston Colin Hynd (Australia) -Mr. Mohammad Rafiqul Islam Khan (Bangladesh) -Mr. Hiroshi Shimada (Japan) -Mr. Dale B. Corvera (Philippines) -Dr. Somboon Bunyasiri (Thailand) (順不同) インプットセッション
10月17日(水)	
	エデュケーショナルツアー
10月18日(木)	
	APRスカウト委員会役務決定 分科会(詳細は以下に記述)
10月19日(金)	
	今後のAPRイベントのプロモーション、ホスト国決定 今回決定した開催地 -第27回APRスカウト会議 開催地：台湾 (2021) -第33回APRスカウトジャンボリー 開催地：韓国 (2025)
10月20日(土)	
	APRスカウト会議決議文の討議、投票 閉会式

7.4 分科会について

• APR Plan 2018-2021 & WOSM Triennial Plan 2017-2020 / APR計画 2018-2021 & WOSM計画 2017-2020

参加者：尾形

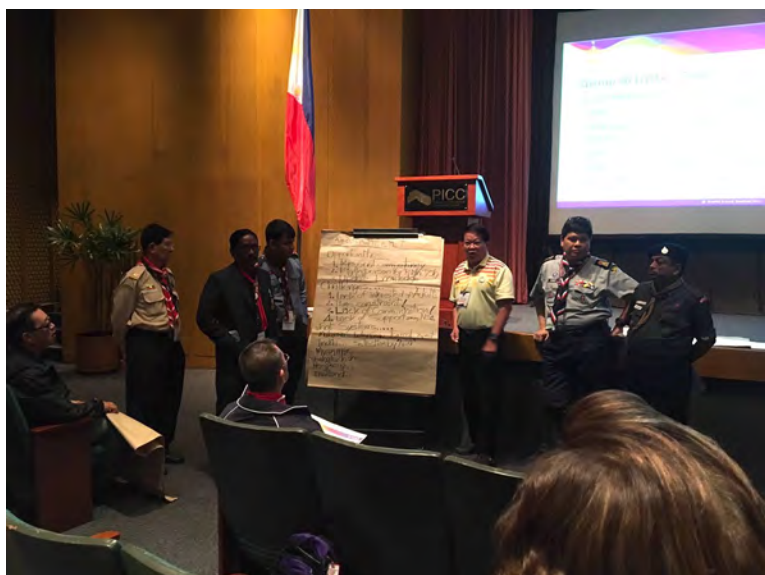
本分科会では題目の通り、APRとWOSMの3カ年計画に関して、各国の状況を加味し、修正を行った。WOSMの3カ年計画はまだしも、APR計画に関しては難しいものもあり、自国で可能なものにはマルを、不可能なものはバツを書くなどシンプルな分類を行った。加えて、青年の参画や財務など様々なトピックに関して形式張らず、カジュアルなディスカッションを行った。ポスターにもまとめ、全体の前で発表をした。私自身は青年の参画についてディスカッションするグループに参加し、YAMGのメンバーを含め数人でディスカッションを行った。全体発表にて、「TRUST YOUTH/青年を信頼しろ」の一言に歓声が上がったことが極めて印象的である。



• Diversity & Inclusion and Dialogue for Peace / ダイバーシティ&インクルージョンと平和のための対話

参加者：太江田

各国連盟の宗教間、異文化間、国境を越えた、多様性と包括について話し合われた。具体的には、WOSMと政府間組織であるKAICIIDが連携している取り組み(Dialogue for Peace)を地域レベル、連盟レベルにおいて同様のプログラムの実施とそれに関するガイドラインを設置し、トレーニングプログラムなどを実施することを推奨した。ここで重要視されたのは、国内においても「多様性と包括性」について考え、同様のプログラムの実施に向けて準備を進めるよう強調している点である。なぜなら「多様性と包括性」に含まれるジェンダー(性別)や国籍の違い、年齢の差などは国内国外問わず存在するためだ。今回参加したDialogue for Peaceプログラム実施者のトレーナーの枠にユースを取り入れている点が印象的である。



• World AIS Policy and E-learning / 世界のスカウティングにおける大人の関わり方の政策とE-learning

参加者：小池

このセッションでは大人がスカウティングにどのように関与していくのかについて話した。まずAISとはの説明から始まり、この運動における大人の存在意義、E-learningの導入する意義について、どのようにE-learningを導入しているのかの例が紹介された。次に各国連盟でAISに関して何を行っているのか、AIS LIFE CYCLEにおいてどこに焦点をあて向上させたいのか、項目を1

つ選び小グループに分かれて話し合った。AIS LIFE CYCLEとは指導者の一年のサイクルを表すようなものである。意見をまとめ、模造紙にまとめて全体で発表をした。ここで、コミュニティベースとスクールベースの違いが問題点の違いとして表れていた。

• Educational methods in GSAT / GSATによる教育方法

参加者：仙田

GSATとは各国連盟が組織としてどのようなガバナンスをしているのかを定量的に判断するために、WOSMが導入している評価制度である。

項目には組織としての財政や運営方法といったものから、各国連盟の教育プログラムとしてどのようにスカウト教育法の考えを取り入れているのかといったボーイスカウト的なものもある。

評価制度という名称であるが、基準に満たされていない各国連盟を罰するためのものではなく、各国連盟が互いに共通の基準を持つことを目的としている。アジア太平洋地域の国々では多くの連盟が取り入れているが、日本連盟では取り入っていないのが現状である。

実際の話し合いの中では、ユースと指導者の歩み寄りについてユース・指導者というテーマごとのグループで分かれてどのような歩み寄りが可能かを話し合った。

• SDGs in Scouting / スカウティングにおける持続的な開発目標

参加者：青年からの参加はなし

• Messengers of Peace / メッセンジャーズオブピース

参加者：青年からの参加はなし

• Growth / 成長

参加者：青年からの参加はなし

7.5 評価反省

今回このAPRスカウト会議に参加することによって数々の疑問点が解消し、多くのことを学ぶことができ、よりAPRについて理解を深めることができた。しかしそれは裏を返せば会議までAPRについての知識が乏しかったことを意味する。実際ユースフォーラムの準備ばかりに時間をとられスカウト会議には時間を割けなかった。深く反省すべき点である。このような結果になった一因には、会議ではどんなことが行われ、何をどう準備をすれば良いのか不明確だったということが考え得る。また会議で扱われる内容のほとんどは事前に行われる小委員会や会議の最中に行われた委員会の中で決まっていることも多く、スカウト会議自体は報告の場という印象が強かった。委員会レベルの議論に参加出来ていないとただ報告を受けるだけの時間となってしまう、非常にもったいないと感じた。同様に日本連盟もユースの積極的な参加を促すためにも、日本連盟の方針や戦略をユースと共有する時間を作って、ローバーと手を取り合っていく必要があるように感じる。スカウト会議へのユースの積極的な参加を促すためにも次回の派遣員には引き継ぎをしっかりと行いたい。

8 派遣前の動きについて

8.1 事前準備

第7回APRスカウトユースフォーラム派遣で代表をつとめた早矢仕晃章さん、第7回、第8回と過去2回APRスカウトユースフォーラム派遣に参加した経験をもつ早矢仕英香里さんおよび、RCJ議長であり、世界フォーラムに2度参加した木村直登さんと連携を取りつつ情報を収集した。その情報をもとに以下のような内容で派遣準備を行った。また国際委員長の嶋田寛さんおよび事務局のジェシーさんには大変お世話になった。この場を借りて改めて感謝の意を表したい。

以下、派遣前の活動スケジュールである。

日時	内容
2018/05/30	募集締め切り
2018/06/17	派遣員選考会
2018/06/30	第1回Skype会議 (1)議事録共有方法 (2)APRスカウトユースフォーラムに対する認識共有 (3)本フォーラムディスカッショントピックへの投票理由 (4)フォーラムへの参加意図 (5)役割分担
2018/07/06	第2回Skype会議 (1)過年度報告書の共有 (2)前回フォーラム参加者の武田さんと早矢仕さんより知見共有 (3)YAMGの仕事とは？ (4)トピックについて(Facebookグループの投稿より) (5)ミッションの設定 (6)各種役割の業務について (7)渉外の役割
2018/07/12	過年度参加者との引き継ぎ連絡 (Facebookのメッセージャーを媒体として今年度派遣員、過年度派遣員とRCJ木村議長、国際担当の堀秀慈を加えたグループで、過年度派遣員と連絡を取れる体制を作っている)
2018/07/12	第3回Skype会議 (1)派遣員内でのルール決め (2)引き継ぎチームに関して (3)SNS活用について (4)各任務の進捗状況 (5)ミッションについて (6)APRスカウト会議について
2018/07/20	第4回Skype会議 (1)ミッションについて (2)Re;QuestでのAPRSYF広報戦略 (3)対面会議での日程決め

2018/07/26	instagram始動
2018/07/29	第5回Skype会議 (1)各自共有事項 (2)日本派遣団の疑問点 (3)RCJの活動について
2018/08/03	Twitter始動
2018/08/04	第6回Skype会議 (1)国際委員長嶋田さんとの話共有 (2)SNS戦略 (3)ゴールとは何か (4)グッズ製作について
2018/08/10	第7回Skype会議 (1)BS人口統計分析 (2)Twitter投稿の振り返りと今後の予定について (3)ユースが行なっている活動について
2018/08/18	第8回Skype会議 (1)事前会議(対面)の予定について (2)進級章、バッジについて (3)自己紹介動画について
2018/08/26	Facebook始動
2018/08/26-28	対面会議(場所: 東京) (1)各トピックへの理解、情報整理、資料まとめ (2)過年度派遣員より情報共有 (3)制服での写真撮影 (4)アンケートについて (5)スカウト会館でジェシーさんとRCJ木村議長同席のもと、派遣員の疑問点の解消
2018/08/29	第9回Skype会議 (1)調査アンケートについて (2)タスク分配、トピックについて (3)IYASAKA×WOSMクイズについて (4)フォーラムの認知度を上げるためには
2018/09/02	IYASAKA×WOSMクイズ始動
2018/09/04	第10回Skype会議 (1)IYASAKA×WOSMクイズについて (2)APRスカウト会議中のセッションでのトピック選択 (3)フォーラムトピックに対する日本派遣団としての意見まとめ (4)調査アンケート進捗

2018/09/11	<p>第11回Skype会議</p> <p>(1)提出物進捗</p> <p>(2)滋賀会議について</p> <p>(3)調査アンケート進捗</p> <p>(4)SNS進捗</p> <p>(5)国際的なイベントの構想</p>
2018/09/18	<p>第12回Skype会議</p> <p>(1)Wifi利用について</p> <p>(2)嶋田さんへの提出書類</p> <p>(3)グッズ製作について</p> <p>(4)アンケート調査について</p> <p>(5)APRスカウトユースフォーラムと世界スカウトユースフォーラムの報告書について</p>
2018/09/22-24	<p>対面会議(場所: 大阪、滋賀)</p> <p>(1)フォーラム中の出し物について</p> <p>(2)教育推進会議その他日連常設委員会について</p> <p>(3)嶋田さんとの意見修正</p>
2018/09/23	<p>事前訓練と派遣任命式(場所: 滋賀)</p>
2018/10/01	<p>第13回Skype会議</p> <p>(1)フォーラム中の出し物について</p> <p>(2)教育推進会議について</p> <p>(3)嶋田さんへの意見修正</p>
2018/10/07-08	<p>直前訓練(場所: 東京)</p>



8.2 調査アンケート結果

アンケート背景

2018年度のRCJ運営委員会は構造改革を経て、もともとの地域ごとの構成員を束ねる県代表をサポートするブロック代表と新たに連盟レベルの施策の中でローバー目線の助言・支援を担当する活動推進委員が誕生した。

新生RCJ運営委員の中で活動推進委員の活躍は今後に期待を寄せるとともに、ブロック代表がまとめている県代表に着目した。理由として日本連盟とRCJ議長との関係性については第8回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム派遣(以下第8回APRSYF派遣)報告書(<https://rcjweb.jp/download/>)でも述べている通りだが、同様の関係性が県代表と県連盟にも通じていると考えた。また第8回APRSYF派遣において、スカウトと成人指導者におけるコミュニケーションの齟齬に関するアンケートが実施(第8回APRSYF報告書P30参照)されたが、団レベルの課題を発見・共有(当然解決できればなおよい)できる存在である県代表に対して調査をした。

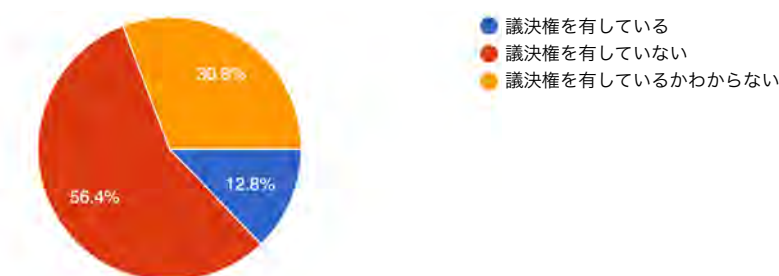
そこで私たちは、RCJのブロック代表を支える県代表全43人に対して、今回のユースフォーラムに関する質問をした。

N=39(県代表数43人中回答数39件)

アンケート結果

1. 青年参画

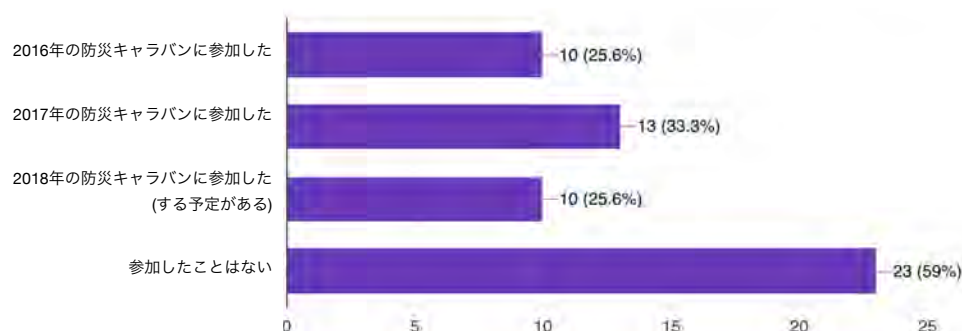
あなたの県連盟においてローバースカウトが県連理事会において議決権を有しているか教えてください。



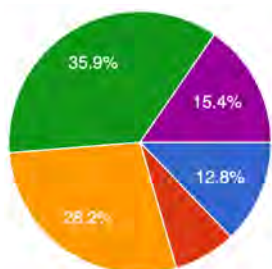
2.1 防災キャラバン

日本連盟主催の「防災キャラバン」について、あなたは参加したことがありますか？

http://www.aeon.info/news/2017_1/pdf/170602R_1.pdf(活動URL)



2.2 日本連盟主催の「防災キャラバン」について、あなたの県連盟ローバースカウトの認知度はどれくらいであると考えますか？

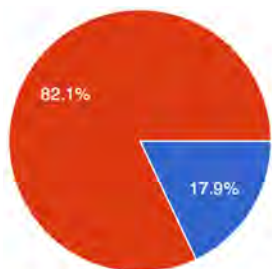


- かなり多くのローバースカウトが知っている
- 多くのローバースカウトが知っている
- やや多くのローバースカウトが知っている
- 少ない多くのローバースカウトしか知らない
- かなり少ない多くのローバースカウトしか知らない

3.1 難民支援

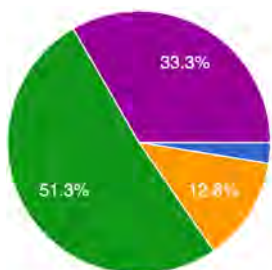
日本連盟主催の「ボーイスカウト×ユニクロ 難民支援衣料回収プロジェクト」について、あなたはこの活動に関わったことがありますか？

https://www.scout.or.jp/support_for_refugees/(活動URL)



- 関わったことがある
- 関わったことはない

3.2 日本連盟主催の「ボーイスカウト×ユニクロ 難民支援衣料回収プロジェクト」について、あなたの県連盟ローバースカウトの認知度はどれくらいであると考えますか？



- かなり多くのローバースカウトが知っている
- 多くのローバースカウトが知っている
- やや多くのローバースカウトが知っている
- 少ない多くのローバースカウトしか知らない
- かなり少ない多くのローバースカウトしか知らない

評価・考察

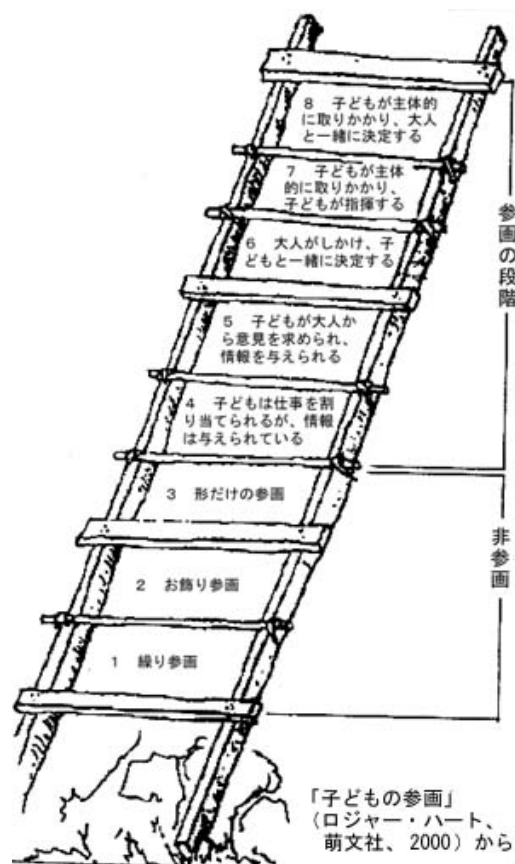
この結果に対してアンケートの設問が適正でないために求める答えを十分に得ることができなかった。しかし県代表レベルのローバーでも日本連盟の活動をきちんと把握できていないことがわかったのは大きかった。正直なことを話すと、自分たち派遣団も本派遣に参加するまでは、普段のスカウティングで十分な情報を入手できていなかった。理由としてローバー活動はベンチャーまでとは異なり、共通のハンドブックが存在せず、個々の大きなローバー活動の情報は報告書から学べるが、ローバーリング自体を体系的に学ぶ方法がないからだと考える。

もちろん自分から情報を取得しに行く必要性はあるが、どうしても団や地区の活動から離れた国際的な行事や日連レベルの活動に対して、当事者意識を持つことは難しいと考える。

解決策として自分の周りのローバーが参加する地区の円卓や日々の活動などで少しでも発信していき、当事者意識を共有してもらえるように働きかけることが大事だと再認識した。

当然県代表といった日本のローバーリングの中核を担うスカウト自身が関心を持つことは理想だが、国際フォーラム経験者がその重要性を広めていくことのほうが現実的なアプローチとしては優先すべきことである。

我々は右図の「ロジャー・ハートのはしごモデル」を参考に、青年参画について考え、RCJ県代表に質問を投げかけた。青年参画の発達段階は1から8までなり、8に近づくほど青年の参画が達成しているという認識である。あなたが所属する団、県連盟における青年参画がどの段階にあるかぜひ考えていただきたい。



8.3 グッズ製作について

日本派遣団として本フォーラムに向けTシャツと缶バッジを作成した。主にTシャツに関しては日本派遣団が着用し、日本派遣団としての一体感を示すことを目的とした。フォーラム中は基本的に制服を着用するが、フォーラム外の時間などで着用する機会が多くあり、十分に目的を果たすことができた。缶バッジについては日本派遣団としての交換品として制作した。フォーラム期間中のインターナショナルナイトを中心に交流の場があり、そのような場で様々なものと交換した。

デザインに関してはTシャツ、缶バッジともに共通したデザインを使用した。日本国旗から連想され、かつ落ち着きを示す臙脂色を用い、本フォーラムのテーマである Growth and Stability(成長と安定)を連鎖的に繰り返されつつ全体で調和された幾何学模様で表現した。成長と安定を、繰り返し重なり合う直線と、その直線によって生み出される正円と楕円で象徴している。

フィリピンでの開催だったこともあり、外ではこのTシャツを頻繁に着用した。しかし一方で室内は冷房の過剰冷却による極寒ということもあり、Tシャツの上に制服を着てさらに厚着をすることが多かった。デザイン自体は非常に好評であり、また派遣員としてもTシャツは便利であった。また缶バッジに関しては100個注文したがもう少し準備しておくべきだった。またそれ以外にもワッペンやネッカチーフなど種類に富んだ交換品を準備しておくべきだったと反省している。以下に会計報告をする。金額についてはすべて税抜きとする。



1 Tシャツ 発注先: ボーイスカウトエンタープライズ			
	数量	単価(円)	小計(円)
メンズL	6	¥ 1,650	¥ 9,900
レディースM	2	¥ 1,650	¥ 3,300
レディースL	2	¥ 1,650	¥ 3,300
商品小計			¥ 16,500
送料			¥ 0
合計			¥ 16,500

2 缶バッジ 発注先: 缶バッジの達人			
	数量	単価(円)	小計(円)
缶バッジ(円形/Zピン/Φ44mm)	100	¥ 79	¥ 7,900
商品小計			¥ 7,900
送料			¥ 800
合計			¥ 8,700

8.4 SNSでの情報発信について

今回の派遣では本派遣用のgmailアカウントを作成しそのメールアドレスからFacebookとinstagram、Twitterのアカウントを作成し、情報発信を行った。またRCJ:ReQuest(2018年8月開催)では小池がボディシールを用いてAPRスカウトユースフォーラムのSNSアカウントの宣伝を行った。SNSごとに担当を決めつつも、アカウントは全員がログインできる状態にして、仕事を分担しながら運用した。

・Facebook(担当者: 太江田)

指導者と世界のスカウトに向けての発信を目的に使用したため、できるだけフォーマルな内容を英語と日本語で書くように心がけた。派遣前に自己紹介ならぬ派遣員同士での他己紹介を行った。派遣中も英語と日本語での投稿を1日1投稿を目標に続けた。

またアカウントは前回の第8回APRSYF派遣のものを引き継いだ。おかげで継続的なユースフォーラムの開催を認知してもらうとともに、より幅広い年代に閲覧してもらうことができた。

情報収集という点でも他国の派遣団のアカウントや事前に運営側で作成された「9th APR Scout Youth Forum」のグループページから、参加国の活動の様子やAPRスカウトユースフォーラムの情報を得ることができた。

・Instagram(担当者: 尾形)

同年代と世界のスカウトに向けての発信を目的に使用した。できるだけ同年代に親しみやすい内容、口調で、また動画(ストーリー)等も使って投稿した。派遣中は内容より回数に重きを置き、短い内容でコンスタントに投稿を続けた。

・Twitter(担当者: 小池)

VS、BS年代に向けて、ローバーの海外派遣ではどのような活動をしているのかを知らせ、興味をもってもらい、今後の派遣員を増やすために使用した。投稿の内容としては事前会議や活動の様子、派遣団員の紹介をした。アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムという名前では長くて覚えづらいので世界スカウトジャンボリーをせかジャン、ワージャンと略すように、アジフォーという名前でアカウントを運用した。また、第13回世界スカウト会議で行われたWOSMクイズを参考にIYASAKA×WOSMクイズというものを全10回派遣前の約1ヶ月継続的に行った。(発案者: 太江田)派遣中は興味をもって貰いやすくするため、またより伝わりやすくするためにできるだけ写真付きで投稿を行った。投稿は内容より投稿数に重きを置き、フォーラムや会議の内容、言葉の説明をしつつ、親しみやすい投稿も行うよう心がけた。

以下にIYASAKA×WOSMクイズ詳細を記述する。

名称 「IYASAKA×WOSMクイズ」

目的 回答者がWOSMの取り組みに関する知識を復習、または興味をもってもらう

目標 日本国内だけでなく国際面でどのような取り組みが行われているのかを知ってもらう

内容

まず名称について説明すると、「IYASAKA(弥栄)」は日本人がはじめに発したことに由来し、「WOSM」はWOSMの取り組みに関する質問が問われることを表しており、「IYASAKA×WOSM」は「日本から世界へ」という意味が込められている。前回の世界スカウトユースフォーラムやAPRスカウトユースフォーラムで派遣前に行った調査アンケートによるとWOSMの取り組みに関する質問については日本人スカウトの国際面における知識が乏しいとみられる結果であった。そこで日本のスカウトが少

しでも国際的な活動に関心を持ってもらえるように、第13回世界スカウトユースフォーラムで行われたWOSMに関する知識を復習できるWOSMゲームのような、クイズを実施した。

具体的には、「WOSMの正式名称は？」というような名称の意味を問う簡単な質問から始まり、徐々に難しい質問に移っていく。回答者には半分ゲーム感覚で楽しんでもらうために、Twitter上でクイズ形式にした。質問を提供する側(派遣員)は回答者数を見ることでどれくらい興味をもっているかがわかる。WOSMの取り組みについて興味を持ってもらうことを目的としているため、より多くの人が気軽に回答できるように全てを選択形式にし、質問の回数を多くした。

実施期間 2018年9月2日-10月8日

以下に、本派遣で使用したSNSのURLならびにアカウント名を添付する。IYASAKA×WOSMクイズについてはTwitterのモーメントにまとめている。

Facebook

<https://m.facebook.com/9thAPR.Japan/>

Instagram

aprsyf.japan

Twitter

@9thAPR_Japan

IYASAKA×WOSMクイズ

<https://twitter.com/i/moments/1035870239383158784>

9. 帰国後の動きについて

<報告書>

派遣団として報告書を作成するべく、提言文の翻訳をSkypeMeetingをしながら行った。非英語母国語話者の作成した英語ということで、文法間違いが目立ち、また1つの同じ概念を示す英単語に対して提言の作成者ごとに異なる。また常用語でないような法律用語を使用しているものもあり、統一の翻訳文を作るために、時間を要した。内容については本文記載の通りである。

<報告会>

派遣団としてはすでに、2018年12月の全国スカウトフォーラムの中で報告会の時間をいただいた。

派遣員としては各自の団や地域・アルバイト先などで行なっているが、この報告書を読んでいるみなさんでも、是非各種SNSを通じて(「8.4 SNSでの情報発信について」を参照)連絡を頂ければと思う。

本派遣での目的は渡航することではなく、あくまで渡航したことで得られたものを広く伝えることにあると考えている。

本報告書でも、可能な限り伝えているが、提言文の翻訳作業の最中に感じた「言葉の背景を共有できない文字のみの意思疎通」では、情報量に限りがあるということを身に染みて感じているので、ぜひ口頭での報告の機会をいただければと思う。

9.1 事後集会

対面事後集会①

日時 2018年10月21日

場所 貸し会議室(成田空港)

出席者 全員

議題

- ・解団式
- ・派遣団装備解体
- ・報告書の割り振り
- ・所感作成

対面事後集会②

日時 2018年12月25日

場所 貸し会議室(新宿)

出席者 全員

議題

- ・提言内容の確認
- ・報告書の確認



9.2 派遣団の目的・目標に対する評価

【派遣目的】

1. 各国連盟の青年代表としての意見を持ち寄り、社会的な課題を解決する糸口を見つけ出すこと。
2. APRおよび他国連盟のスкауティングに関する考え方を日本に持ち帰ること。

APRそれぞれの国ごとに抱えている問題は異なり、すべてを解決するシルバードレッドのような万能策はもちろん存在しない。

例をあげるならば、コミュニティベースの日本のスカウティングと東南アジア諸国のようなスクールベースのスкауティングでは、同じ問題に悩んでいるようには思えない。またスカウト人口が減少している日本と大幅に増えているアジア諸国の国々が同じ問題で悩むとも考えにくい。しかしだからと言ってすべてを参考にしないというものでもない。

日本における課題を因数分解することで、参考にできる部分は存在すると思う。日本における課題については、今回の渡航を通じて様々な人たちが改善のために取り組んでいることを知り、これから関係者と協力しながら少しずつ働きかけていきたいと考えている。

【派遣目標】

1. 事前に日本のローバーの現状についてまとめること。
2. 得られた情報や知見を参加していないスカウトへ伝えること。

まずはじめに、第8回APRSYF派遣やWSYFの報告書で指摘されていた知識の継承を目的とした国際フォーラムチームは現在解散されている。理由として第8回APRSYF派遣とWSYFは国際フォーラムというくくりで集められたチームではあるが、APRSYFで話される議題とWSYFで話される議題は、決して同じものではなく、準備するものも異なる。であるならば、異なる目的のチームで協同する意義が見当たらないとの理由で解散したと聞いている。

しかしRCJ運営委員会という組織の中で知識の継承を行えるような仕組みづくりが現在進められている。RCJ運営委員会と協力して、知識の継承を行うとともに自分たちでも積極的にPR活動を進めていこうと思う。

10. 派遣員所感

太江田 真樹

ボーイ、ベンチャー、ローバー部門へとただエスカレーター式に上進し、既存の活動に参加する。これが今までの活動形態だった。しかし、それが覆されたのが今回の派遣である。もちろん、ベンチャー・ローバー部門で地域のため、所属するグループのため、そして自分のために自ら作り上げるプロジェクトや活動などで務めを果たしてきた。しかし、これに於いてはまた違うものがあった。フォーラム前後と最中、自分たちで問題提起をし、その解決策を探っていたのだ。楽しくも苦しくもあったが、派遣メンバーと未解決の問題について1から考えることは興味が尽きないと同時に自分(たち)がスカウティングについて如何に知識不足かが分かった。今までなんと無しに盲目的に理解していた認識が間違っていたのだ。その証拠に整然と説明できないでいた。そのため派遣前の準備段階では主にその無知の「知」を発見し、学習することだった。しかし、フォーラムに参加したからと言って提起した問題が解決へと導かれた訳ではない。派遣中に最も学習し、問題のほとんどが解決したが、根本のものはまだ土の奥深くに根付いたままである。それを掘り起こし、化粧を施して綺麗な状態で他に「これはいかが?」と手渡す作業(提言文の作成)が派遣後の今していることだ

派遣当日は一人で日本を発つことになり、他の派遣員より3日早くフィリピン入りし、ユースフォーラムが始まる2日前にDialogue for awareness peace workshopに参加していた。各セッションごとのアクティビティはどれもスカウティングに結びつけられるため、各国連盟が抱える問題と照らし合わせてその話を共有するなどそれぞれの国色を向うことができ、面白いものだった。講義中、コンフリクト(衝突・紛争)が起こる原因について考えた。初め相手のことについて知らないのは当たり前で、だからこそ「対話」によるコミュニケーションによって、人の行動の背景や考えなどの目には見えないものを伝えるべきなのだが、派遣メンバー内でそれを失念していたことがあり、しばし衝突があった。目には見えないものを可視化する難しさである。しかしふと思った。対話の欠如が日本人特有の「察する」ことに近いものがあると。それは、わたしたちスカウトが自然の中で活動する際にしている渚の思考にあると思った。(渚の思考とは、自然と五感をつなぎ合わせた際にできるもの)渚の思考をすることで五感をフルに活用し、コンフリクトの原因になる「目には見えないもの」を感覚する力が備わり、他者への配慮が育成される。このような能力が自然と備わっているということをぜひ感じ取ってほしい。これが「対話」とどう関わっているかはさておき、スカウトの他へのつとめは特に自然の育みのなかで生まれたのかもしれない。

フォーラムの提言文については、本来であれば、事前に仕上げ、その内容に基づいて事前に他のNSOと連絡を取り合い、議論するのが望ましい。事前に話し合いの時間がないため、提言文についてのディスカッションをするより、自由なディスカッションの場を設けるなど改善の余地が見られた。また、一つの提言文に対し賛同者を集め、提出する形も良いが、似ている提言文を組み合わせる連盟共同のものを提出するなどして内容が重複しないような形で提出するのも良いのではないかとも考えた。ひとまず日本の提言文(NO.6)が無事採択されたことに安堵している。

計17日間参加した3つの会場ではどこも終始明るい雰囲気にも包まれていた。フィリピンスカウトのお陰と言おうかその明るい国民性がそうさせていると感じた。その中であるスカウトが発した「Scouting should be happy!」と言っていたのが印象に残っている。指導者も一緒にスカウトと楽しむことが大切なのだ。派遣中に見た限りではフィリピン人はその時その時を一生懸命に生きる人が多く、その場に集うスカウトとの二度と訪れないかもしれない交流のチャンスを逃すべく、前のめりに参加している姿が見受けられた。そのような姿を見てひとつ一つに限りある時間を大切にしようと思うのだった。

最後に、フォーラム前後、期間中を共にした派遣メンバーとその他関わったすべての方に感謝を申し上げたい。この派遣を紹介・参加を勧めてくださった先輩や今まで指導者に至る部門で成長を支えてくださった団の方々、そしてスカウト活動の環境に入れてくれた親、皆に恩返しをしたいと思う。今回の派遣メンバーにも恵まれ、性格や持っている特質がみな違い、みな違うからこそ幅広い仕事をそれぞれに合った役割分担ができた。どうしてもこの派遣団員だけでは解決できない課題については数え切れぬほど他に力添えをいただき、協力をしていただいた。その折々、重ねて感謝としたい。



尾形凛太郎

数、回想のようになりませんが。

幼少からスカウト運動に関係しており、自己の中でスカウト運動の輪郭は定かではありません。余り美しいものでもありません。多様な活動の中にスカウト運動の本質を見出し、自己了解をすることは時に困難で。迷走することもあり、亀裂を生み出すこともありました。それと日本連盟が抱える問題を相関させ、短絡的に批判していた高校時代の私は、極めて迂拙でありましたが、その「愚考」に私は案外導かれているように感じます。

日本においてスカウトの人口は減り続けており、その現象を相対化するために本派遣に参加をしました。大会ではない、議論の場に自らを投じ。「愚考」でありながら、時に形相を変える、その探究が密かな自分の課題でした。

フォーラムは四日に渡り。自らの人生の中で複数個存在する転換点の一つになったと感じています。体験とは恐ろしく。平面的にしか知らなかった人々が実体を伴い、犇めき、衝突と融和を繰り返す様と、そこに孤立する自己が共存する空間は息しがたく。

日本は地理的理由を背景にアジア太平洋地域に区分されている。そこに違和を感じるまでの過程は案外、長かった。日本はどの切り口から覗き込もうと、他の連盟とは異なるのである。優劣があるわけではなく、ただ構造上の差異が比較的大きいのである。絶対的差異の中で適切な相対化は難しい。私はmetaから早々に降り、水平な眼差しで、冷静に自国の分析を始めた。私は日本連盟に詳しくなったようである。勿論RCJにも。

私は長く時間をかけた事前準備が意味を成さないと知り、深く落胆した。成さない、とは語弊を含み、フォーラムに対しては、有効でなかったということである。日本を知るための視点提供ではあり、その目的は大いに果たせたが、他国に持ち込めるものではなかった。加え、APRに関する知識の欠陥が如実に現れ、香港や台湾など他地域との歴然とした差に苦悩し、混乱した。

復、私は"étranger"の中に在って、そこで自らの中に有った「飢え」を再確認したのです。焦燥。撤退をしたくなりますが、「飢え」には勝てず。成程、これは「愚考」に満ちていた心情の変容なのかも知れません。領域的に広がっていた「愚考」は、従うべき数本のベクトルを発見し、「飢え」へと変態したようです。あとは積分するのみ。



小池 明日香

4月末に応募し、6月26日に内定通知をいただいてから今日までとても刺激的な日々でした。私は今年の3月まで大学受験をしていて、人生の大きな区切り目であるこの4月に日本連盟のホームページでこの派遣を見つけました。第9回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム。去年の8月に私はモンゴルで行われた第31回アジア太平洋地域スカウトジャンボリーに参加しました。そこでAPRの雰囲気、ノリがとても好きになり、APRに興味がありました。また高校の時の世界史の先生がフィリピンへ旅行に言った時に、「フィリピンの人はみんなおおらかで良い人。戦争時のことなんか気にしてなくて、日本人がフィリピンに来ることをとても歓迎してくれる、本当にいい街なんだ。」と授業中に熱弁され、フィリピンという国に興味がありました。またベンチャースカウト時代に何度もスカウトフォーラムに参加していたので国際フォーラムにも興味がありました。その3つの興味が重なり、このアジア太平洋地域スカウトユースフォーラムについてどんなものなのかという興味が湧いてきて、応募に至りました。さて、私はローバー1年目。この派遣を通して本当に多くのことを学び、多くの経験させてもらいました。時にはプレッシャーに負けそうになる時もありましたがなんとかここまでやってこれたのも周りの方々の支えのおかげです。団、地区、大阪連盟、日本連盟、APR、過年度のユースフォーラム参加者、また学校の友達、バイト先の方々、家族。そして同じ派遣のメンバーには本当に感謝しかありません。この場を借りてお礼申し上げます。

それでは何を学んだのかと言えばキリがないし、どんな気持ちなのかというと、えも言われぬ気持ちなのですが、例えるとすれば、人生で初めてジャンボリーに参加した気分です。本当に私が初めてジャンボリーに参加した第16回日本ジャンボリー/第30回アジア太平洋地域スカウトジャンボリーを思い出しました。あの頃の感動は今でも忘れられません。これがボーイスカウトなのか！と思いました。あの時も多くのことを学び一回り成長して帰ってきました。今回も一回り成長できたのではないかな、、、と思います。

一番色々な宗教があり、一番多くの言語があり、一番加盟員が多く、一番衝突が多いAsia-Pacific Region そんな、多様性があり問題児な地域のスカウトがみんな同じ問題について真剣に考え、それぞれの意見を述べる。その意見にしっかり耳を傾け、いい意見だと思ったら素直に褒める。そこに争いなんてありませんでした。自由な時間になるとたちまち自分の仲良くなりたい人に積極的に話しかけ、曲が流れれば歌い踊り、カメラを向けられればポーズをとる。拙いながらに敢えて、勉強してきた相手の言語で話しかけ、見返りを求めずバッチをあげる。それだけで私たちは仲良くなれました。多様性がそれを許したのだと思っています。英語に自身がない私に言ってくれた「自分も前回のAPRスカウトユースフォーラムでは英語が話せなかったけどそれから頑張って勉強して今回YAMGに立候補したんだ」という台湾のスカウトの言葉は決して忘れませんし、そのスカウトがYAMGに当選した時の感動も忘れません。英語で伝えることができなくて悔しい思いをしている時に、様々な手段を使い理解しようとしてくれ、「言語なんて関係ない。伝えようとする気持ちが大事なんだ。君は18歳でこの派遣に参加しようとするなんて本当にすごいね。そのチャレンジが大事なんだ。」と認めてくれたことも決して忘れません。またセッション2では自分の富士スカウト章挑戦時に行ったプロジェクトをグループで共有するとそれがグループの代表のストーリーになり、ロールプレイングで主役をすることになった時は緊張しすぎて口から心臓が出るかと思いましたがチームのみんなと相談し全員で演じきった時の感動も全て忘れません。

しかし派遣までに何度も何度も会議をする中で、時にはメンバーに対し怒りを覚えることもありました。派遣中は睡眠時間を削り話し合うこともあったり、疲れがたまりもうこれ以上英語を聞きたくないと思うこともあったりする中で、またまたメンバーに対し苛立つこともありました。また、相対的に見ても本派遣は完璧だったとは言い難いと思います。

その分、良いことも悪いことも含めこの経験を生かし、これからの自分の活動に繋げていきたいです。またこの経験を色々な人、場で共有し次の世代に伝えていきたいです。

かつて、私の指導者が「ジャンボリーに行かんなんてボーイスカウトしてる意味ない」と言ったように「ユースフォーラムに行かんなんてローバースカウトしてる意味ない」なんて言ってみようかなとさえ思いました。



仙田 雅大

『バングラデシュのスカウトにまた会いたい。』

私がこの派遣を志したのは、ひとえに平成29年度CJKプロジェクト・バングラデシュ派遣(以下5thCJKB)の派遣中止がきっかけである。平成30年2月6日21:50に受信したひとつのメールによって自分の半年もの間、準備してきたものが水泡となった。しかし5thCJKB派遣中止に伴う関係各所への報告を済ませて、どうしようもないやるせなさで途方に暮れていた時に言われた一言は私の心を大いに動かした。

「ボーイスカウト運動はMovementだよ、あくまで主役はスカウトなんだ」日本においてボーイスカウトが学校教育でもなく、クラブ活動でもなく運動(Movement)だと力説された自分は、その言葉の意味を強く知りたくなった。それは同時に5thCJKBの虚無感が薄れていった瞬間でもあった。派遣を決めた理由はお世辞にも褒められた理由ではないと思う。冒頭にも書いた通り、どうしても会いたいスカウトたちがいたからだ。本派遣の面接でもそのように言って面接官を苦笑させたのを、記憶している。また面接では最年長ということもあって、リーダーシップについても問われた。その時は「責任を負うこと」というありきたりな答えしか言えなかったが、意味することはただ5thCJKBでのクルーリーダーの経験が「逃げてはいけない」という意味での強い責任感を抱かせたことだ。その責任感から本派遣でもクルーリーダーとしてメンバーをまとめてきた。もちろん簡単ではないが、やりがいがあった。今回の派遣でクルーリーダーとして意識したのは主に二点である。モチベーションと触媒である。どんな事業でも「やりたいこと」も「やるべきこと」も膨大にあるため、優先順位をつけて「やるべきこと」を効率よく終わらせなければ、とても「やりたいこと」なんてできやしない。そのため派遣員が、モチベーション高く作業できる環境づくりを徹底した。過年度派遣者やユースフォーラム経験者を通じた知識の継承や、自国のスカウティングに関する情報収集・意見交換など最低限必要な「やるべきこと」は多くの人々に助けてもらうことで、効率よくクルーと共有することができた。同時にクルーメンバーが足を止めそうになるたび、障害を特定してなるべく早く解消できるように、自分が触媒となって色々な人の協力を求めた。クルーを引っ張ることだけがリーダーシップではない、クルーが足をとめないように気を配ることが大切という想いで取り組んだ。しかし本派遣でもクルーリーダーとして意識したことの根幹は変化していない。きちんと責任感を持って全員にとって実りある派遣にすること。ここでいう全員とは、クルー四人のことではない。クルーメンバーを支えてくださる会ったことも話したことのない人たちも含む全員のことである。主役はスカウトであってもこの運動はスカウトだけのものではない。5thCJKBでの派遣中止は私にたくさんのことを教えてくれたのだと思う。そして本派遣で経験として自分の中に蓄積させていただけた。この派遣は自分にとってバングラデシュへの想いを形にすることができたし、リーダーシップや組織について学んだ理論を実践する機会を得たという点で非常に満足のいく派遣であった。日本という枠組みを超えたスカウティングについて学ぶこともできたので、ぜひこの知識を継承していただけるようにいろいろな場で報告していきたいと思う。支えてくれた皆さん誠にありがとうございました。



11. 派遣に参加して

11.1 派遣員として日本連盟への要望

1

地域会議の青年代表及びオブザーバーを派遣団の事前集会に出席可能とすること。

背景

第13回世界スカウトユースフォーラム報告書p70、10.1 日本連盟への提言3番目、背景より、

今回の派遣では世界会議におけるユースの意思決定への参画が十分では無かったと評価できる。世界会議代表団の事前集会に青年代表及びユースのオブザーバーが出席できなかったために、世界会議代表団とユースの議案に対する見解に差があった他、ユースの意見を世界会議での意思決定に反映する十分な機会が提供されていなかった。

地域会議であるAPRスカウト会議においても同様の背景があり、第13回世界スカウトユースフォーラムでの提言に続いて提言する。

2

日本連盟は、すべてのRSが利用可能なローバーハンドブックを出版すること。ハンドブックは以下の事項を考慮すること。

- 班制教育を通して学んだリーダーシップを、社会人として実践する方法
- 社会人として社会に関わっていく上で必要不可欠な社会人基礎力に関する事柄
- 国際的な行事に参加した場合でも役立つ程度の、世界規模でのスカウティングに関する情報

青少年教育であることに留意し、考え、行動することによる学びを促すようなハンドブックを検討すること。

背景

第13回世界スカウトユースフォーラム報告書p71、10.1 日本連盟への提言7番目、背景より、

現在ローバースカウトハンドブックは絶版となっており、その不在による影響が各地にて見受けられる。具体的には、スカウトのみならず指導者までもがローバーリングを適切に理解しておらず、日本ではローバーリングの理解が全国的に非常に遅れているという問題がある。そこで、ローバースカウトハンドブックを再販することが求められる。

ローバーリングへの適切でない理解は現在日本連盟において直近の問題であり、ローバースカウト内で、それを自覚しているスカウトも多く存在する。本派遣団もこれに対する大きな問題意識のもとAPRスカウトユースフォーラムに参加し、他国連盟の、明確な認識のもと適切なローバーリングを行なっているスカウトと交流する中で、この問題を再確認した。

加えて、スカウト教育の根幹である班制教育で養ったリーダーシップを社会という枠組みで実践する方法を示し、ローバースカウトの、社会における「より良き社会人」の育成を目指すこと。また、APRスカウトユースフォーラムにおいて、他国連盟のスカウトとの世界規模でのスカウティングに関する知識格差に苦悩した。日本のローバースカウトにおいても青年参画方針(Youth Involvement Policy)や青年プログラム方針(Youth Programme Policy)など、WOSMが主軸としている考え方を取り入れるべきである。

3

日本連盟は、RCJ活動推進委員に対し、活動推進委員の担当と呼応する常設委員会への参席の機会を提供すること。

背景

APRでは地域委員会、地域小委員会に対するユースの参画の場が設けられており、それに基づき、18歳から26歳のスカウト6名からなるYAMGが存在する。それぞれの委員会において、ユースは他の委員と同等の決定権を有し、3年を任期として責務を負う。日本連盟において、教育推進会議においてはRCJ議長が参画しているが、その会議のもとに属する常設委員会に対してはユースが参画する場が設けられていない。理由として、常設委員会の任期が2年であるのに対し、活動推進委員の任期は1年であり、任期が対応していないこと。また、常設委員会で議論されている議題に対する知識や経験が、ユースが参画するほどの水準に達していないことなどが挙げられる。それを踏まえ、より短期的な目標かつ、常設委員会への参画を将来的に可能にするアプローチとして、参席程度の常設委員会との関わりを構築するべきである。

4

常設委員会の中に委員としてローバースカウトを取り入れること。

背景

第13回世界スカウトユースフォーラム報告書p72、10.1 日本連盟への提言10番目、背景より、

日本連盟におけるユースの参画を強化するために必要不可欠である。他国連盟においてはユースの委員やコミ*は至って普通のことであり、この点においても日本は青少年の意思決定への参画が遅れていると評価される。Youth Involvement Policyに記されている「Scouting is a Movement of young people, supported by adults; it is not a Movement for young people managed by adults only」を実現するための第一歩として、意思決定にて重要な役割を担っている常設委員会の中に委員としてローバースカウトを取り入れることは非常に重要である。

*コミ=コミッショナー

提言文3で述べたとおり、地域委員会や地域小委員会に対しYAMGが参画している。これは世界委員会に対するユースアドバイザーの参画と同様であり、日本連盟においても、このように意思決定の場に青年が参画することが望ましい。したがって、第13回世界スカウトユースフォーラムでの提言に続いて提言する。

11.2 全国ローバースカウト会議（RCJ）への要望

5

RCJは、RCJ運営委員会に属する活動推進委員に対し、過去に国際フォーラムへ参加した経験のあるスカウトと意見共有する機会を設け、知識の充実化を図ること。

加えて、活動推進委員と、過去に国際フォーラムへ参加した経験のあるスカウトは、すべての県代表を対象として、RCJに関する知識の充実化と、青年参画方針(Youth Involvement Policy)、青年プログラム方針(Youth Programme Policy)などを中心にWOSMに関する知識の充実化を図ること。

背景

第13回世界スカウトユースフォーラム報告書p73、10.3 RCJへの提言4番目より一部抜粋、

提言

日本連盟の組織構造などを十分に理解するために図などを作成し、委員や県代表の理解力及び知見の向上に努めること。

背景

RCJの県代表はおろか運営委員でも日本連盟の組織構造などを十分に理解していない場合が多いようである。

APRスカウトユースフォーラムにおいて、他国連盟のスカウトと、WOSMに関する情報など世界水準で共有されている知識に関して顕著な差が現れた。また、ローバー教育の中心であり、RCJの組織運営も担う活動推進委員における、RCJに関する知識や上述の世界水準の知識についての充実化は緊急に求められ、その下で活動推進委員が中心となって県代表の知識充実化を行うべきである。また、国内のローバーリングを理解するには、他国のローバーリングとの比較が必要である。そこで、過去に国際フォーラムへ参加した経験のあるスカウトと意見共有する機会を設けることが推奨される。

6

RCJは、RCJフォーラムでの充実した議論の下得られる結果を表現する手段について、多様な表現方法を模索すること。

背景

APRスカウトユースフォーラムでは、グループワークで得られた結果を、模造紙にまとめるだけでなく、劇を行ったり、付箋と糸を用いて図形を作りながら表現するなど様々なアウトプットによって発表した。このようなユニークな発表の手法をRCJフォーラムでも参考すべきである。

12. 総括

12.1 終わりに

このような国際フォーラム系の派遣(APRSYF、WSYF)は、事前にどこまで準備できるのかが大事である。過去報告書にその点は事細かに記載されているので、今回の派遣団ではなるべく過去のフォーラム派遣経験者と連絡を取って情報不足を解消しようと尽くした。しかしやみくもに情報を集めると、次は膨大な情報に飲まれかけるので注意が必要である。ぜひ次回の派遣団には情報を整理する術を身に付けてほしいと考える。準備とはすべての情報を集めることではなく、自分たちのビジョンのために必要な情報を整理することが本来の準備である。

集めた情報を整理して必要な時に参照できるようにするほうが、情報不足よりも、情報過多よりもはるかに重要である。そういう意味で派遣経験者は、情報に重みをつけて紹介してあげることが大切といえる。この情報の重みという観点も自分たちも報告会で意識していかなければいけないと思う。

最後に、派遣に際してお世話になった派遣員の団・地区・県連盟の方々、ジェシーさん・大高さんを始めとする日本連盟事務局の方々、APRSYF派遣元代表早矢仕夫妻・泊さん、RCJ木村議長をはじめ、RCJ運営委員会の皆様、事前訓練でお世話になった元RCJ議長戸谷さん・京都連盟笹渕さん・滋賀連盟下村さん、そして嶋田国際委員長をはじめ、APRスカウト会議派遣代表団の皆様に改めて深く御礼申し上げます。

12.2 参考資料

WOSMのAPRに関する書類(<https://www.scout.org/asia-pacific>)

APRSYFのホームページ(<http://www.26aprsc.com/aprsyf/>)

APRSConfのホームページ(<http://www.26aprsc.com/>)

RCJのホームページ(<https://rcjweb.jp/>)

APRSYFとAPRSConfの書類(<https://drive.google.com/drive/folders/1V5gcmj8EHbajvqX6zxAHcg2i2o4gVldj?usp=sharing>)

12.3 記録





第9回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム派遣 派遣報告書
9th Asia-Pacific Regional Scout Youth Forum Japan Contingent Report

2019年3月 発行

発行



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

〒167-0022

東京都杉並区下井草4-4-3

電話 : 03-6913-6262(代表)

ファックス : 03-6913-6263
